Canon

# Satera

# MF7450N/MF7350N/MF7330

## ネットワークガイド

ご使用前に必ず本書をお読みください。
将来いつでも使用できるように大切に保管してください。

# 取扱説明書の分冊構成について

本製品の取扱説明書は、次のような構成になっています。目的に応じてお読みいただき、本製品を十分にご活用ください。

下記はオプションに添付されている取扱説明書も含んでいます。購入された製品、システム構成によっては、お手元にない取扱説明書（ご利用になれない機能）があります。

このマークが付いているガイドは、製品に同梱されている紙マニュアルです。

このマークが付いているガイドは、付属のCD-ROM に収められています。

| 目的 | ガイド |
|---|---|
| **• 基本的な操作、便利な使いかたを早く簡単に知るには** | **かんたん操作ガイド**  |
| **• 基本的な使いかたを知るには**<br>**• 困ったときには** | **ユーザーズガイド**  |
| **• コピーの使いかたを知るには** | **コピーガイド**  |
| **• 送信機能／ファクスの使いかたを知るには** | **送信／ファクスガイド**  |
| **• CARPS2 プリンタ機能の使いかたを知るには** | **CARPS2 プリンタガイド**  |
| **• リモート UI の使いかたを知るには** | **リモート UI ガイド**  |
| **• ネットワークとの接続や設定について知るには** | **ネットワークガイド（本書）**  |
| **• Network ScanGear ドライバのインストールのしかたなどについて知るには** | **Network ScanGear ユーザーズガイド**  |
| **• プリンタドライバのインストールのしかたなどについて知るには** | **CARPS2 ソフトウェアガイド**  |
| **• ファクスドライバのインストールのしかたなどについて知るには** | **ファクスドライバガイド**  |

●PDF 形式のマニュアルを表示するには、Adobe Reader/Adobe Acrobat Reader が必要です。ご使用のシステムにAdobe Reader/Adobe Acrobat Reader がインストールされていない場合は、アドビシステムズ社のホームページからダウンロードし、インストールしてください。
●本書は、改良のため画面等は予告なく変更されることがあります。正確な仕様が必要な場合はキヤノンまでお問い合わせください。
●本書に万一ご不審な点や誤り、または記載漏れなどお気付きのことがありましたら、ご連絡ください。

# 本書の構成について

## 第 1 章 お使いになる前に

必ずお読みください

## 第 2 章 ネットワークの共通設定

## 第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用するには

## 第 4 章 NetBIOS ネットワークで使用するには

## 第 5 章 困ったときには

## 第 6 章 付録

ネットワーク設定項目、仕様、および索引について説明しています。

# 目次

## 第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用するには



## 第 4 章　NetBIOS ネットワークで使用するには

## 第５章　困ったときには



## 第６章　付録

# はじめに

このたびはキヤノン Satera MF7450N/MF7350N/MF7330 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本製品の機能を十分にご理解いただき、より効果的にご利用いただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。また、お読みいただきました後も大切に保管してください。

# 本書の読みかた

## マークについて

本書では、安全のためにお守りいただきたいことや取り扱い上の制限・注意などの説明に、下記のマークを付けています。

警告　取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う恐れのある警告事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの警告事項をお守りください。

重要　操作上、必ず守っていただきたい重要事項や制限事項が書かれています。誤った操作によるトラブルを防ぐために、必ずお読みください。

メモ　操作の参考となることや補足説明が書かれています。お読みになることをおすすめします。

## キー・ボタンについて

本書では、キー名称、ボタン名称を以下のように表しています。

- 操作パネル上のキー：＜キーアイコン＞＋（キー名称）

  例：　(スタート)

  　　　(ストップ)

- タッチパネルディスプレイ上のキー：[キー名称]

  例：　[キャンセル]

  　　　[閉じる]

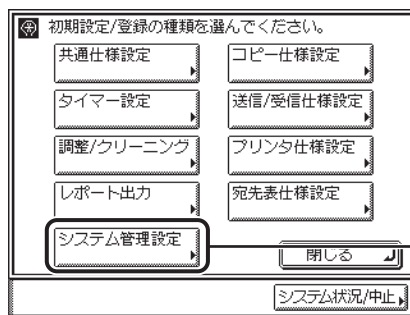
- コンピュータ画面上のボタン：[ボタン名称]

  例：　[OK]

  　　　[追加]

## 画面について

本書で使われている画面は、特にお断りがない限り Satera MF7450N にオプションのフィニッシャー U2、フィニッシャー用追加トレイ・C1、両面ユニット・B1、3 段カセットユニット・AF1 が装着され、シンプル SEND 拡張キットを有効にした場合のものです。
アクセサリ、オプションの組み合わせによって使用できない機能に関しては、本製品の画面には表示されませんが、ご了承ください。

操作時に押すキーの場所は、◯（丸）で囲んで表しています。また、操作を行うキーが複数表示されている場合は、それらをすべて囲んでいますので、ご利用に合わせて選択してください。

## 略称について

本書に記載されている名称は、下記の略称を使用しています。

| | |
|---|---|
| Microsoft® Windows® 98 日本語版： | Windows 98 |
| Microsoft® Windows® Millennium Edition 日本語版： | Windows Me |
| Microsoft® Windows® 2000 日本語版： | Windows 2000 |
| Microsoft® Windows® XP 日本語版： | Windows XP |
| Microsoft® Windows Server® 2003 日本語版： | Windows Server 2003 |
| Microsoft® Windows Vista™ 日本語版： | Windows Vista |
| Microsoft® Windows® Operating System： | Windows |

## 商標について

Canon、Canon ロゴ、NetSpot、imageWARE、Satera は、キヤノン株式会社の商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat、Acrobat Reader、PostScript および PostScript 3 は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。

IBM は、米国 IBM Corporation の商標です。

Apple、Macintosh、Mac、MacOS は、米国およびその他の国で登録されている Apple Inc. の商標です。

Microsoft、MS-DOS、Windows ロゴ、Windows、Windows Server、および Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は Linus Torvalds の商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Netscape、Netscape Navigator は米国 Netscape Communication Corporation 社の商標です。

Ethernet は、米国 Xerox Corporation の商標です。

その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

1
CHAPTER

# お使いになる前に

対応しているネットワーク環境やお使いのネットワーク環境の確認など、お使いになる前に知っていただきたいことについて説明しています。

# 必要なオプションとシステム環境

本製品のオプションとシステム環境について説明しています。

## 本体のみで使用する

本製品をネットワークに接続すると、リモート UI などを使用して、本製品の各種設定や操作をコンピュータ上で行うことができます。

リモート UI については「リモート UI ガイド」、ユーティリティソフトウェアについては「第 6 章　付録」を参照してください。

## コンピュータから印刷またはファクス送信する

### 必要なオプション

コンピュータから印刷またはファクス送信するには、次のオプションが必要です。

**重要**　必要なオプションの詳細については、担当サービスにお問い合わせください。

#### ■ TCP/IP ネットワークで印刷する場合

- CARPS2 プリンタキット（Satera MF7450N/MF7350N は標準装備）
- ネットワークインターフェースボード（Satera MF7450N/MF7350N は標準装備）

## システム環境

本製品を使用して、コンピュータから印刷またはファクス送信を行うには、使用するネットワークに応じて以下のシステム環境が必要です。

### ■ TCP/IP ネットワークを使用する場合

- 対応している OS
  - ・Microsoft Windows 98/Me 日本語版
  - ・Microsoft Windows 2000 Server 日本語版
  - ・Microsoft Windows 2000 Professional 日本語版
  - ・Microsoft Windows XP Professional 日本語版
  - ・Microsoft Windows XP Home Edition 日本語版
  - ・Microsoft Windows Server 2003 日本語版
  - ・Microsoft Windows Vista Ultimate 日本語版
  - ・Microsoft Windows Vista Business 日本語版
  - ・Microsoft Windows Vista Home Premium 日本語版
  - ・Microsoft Windows Vista Home Basic 日本語版
  - ・Microsoft Windows Vista Enterprise 日本語版
- 対応しているコンピュータ
  - ・Windows をお使いのときは、IBM PC 機／その互換機、PC-98 シリーズ

重要 ● Windows 2000 をお使いのときは、Service Pack 4 以降をインストールしてください。

# 電子メール /I ファクスを使用する

## 必要なオプション

電子メール /I ファクス機能を使用するには、次のオプションが必要です。

- シンプル SEND 拡張キット
- ネットワークインターフェースボード（Satera MF7450N/MF7350N は標準装備）

重要　必要なオプションの詳細については、担当サービスにお問い合わせください。

## システム環境

本製品の電子メール /I ファクス機能を使用するには、以下のシステム環境が必要です。

- 対応しているメール転送用サーバソフトウェア
  - Sendmail 8.93 以降（UNIX）
  - Microsoft Exchange Server（Windows）
    （Microsoft Exchange Server5.5 + Service Pack1 以降）
  - Lotus Domino R4.6 以降（Windows）
- 対応しているメール受信用サーバソフトウェア
  - Qpopper 2.53 以降（UNIX）
  - Microsoft Exchange Server (Windows)
    （Microsoft Exchange Server5.5 + Service Pack1 以降）
  - Lotus Domino R4.6 以降（Windows）

重要
- Windows 2000 をお使いのときは、ServicePack 4 以降をインストールしてください。
- IPv6 には対応していません。

メモ　本製品から電子メールや I ファクスを送信するときは、SMTP を使用してメールサーバに送信します。本製品が電子メールを受信するときは、メールサーバに送信された電子メールや I ファクスを POP3 プロトコルで受信する方法と、本製品の SMTP 受信機能を利用して直接受信する方法があります。後者の方法で受信するときは、メールサーバが POP3 プロトコルをサポートしている必要はありません。
（本製品が受信できる電子メールは、I ファクス画像と、通信時にエラーが発生した場合のエラーメールのみです。）

# データを送信する

## 必要なオプション

データ送信機能を使用するには、次のオプションが必要です。

- シンプル SEND 拡張キット
- ネットワークインターフェースボード（Satera MF7450N/MF7350N は標準装備）

重要　必要なオプションの詳細については、担当サービスにお問い合わせください。

## システム環境

本製品からファイルサーバへデータを送信するには、使用するネットワークに応じて以下のシステム環境が必要です。

### ■ TCP/IPv4 ネットワークを使用する場合（FTP を使用する場合）

- 対応しているサーバ
  - ・Microsoft Windows 2000 Server 日本語版＋ Internet Information Services 5.0
  - ・Microsoft Windows XP Professional 日本語＋ Internet Information Services 5.1
  - ・Microsoft Windows Server 2003 日本語版＋ Internet Information Services 6.0
  - ・Microsoft Windows Vista Ultimate 日本語版＋ Internet Information Services 7.0
  - ・Microsoft Windows Vista Business 日本語版＋ Internet Information Services 7.0
  - ・Microsoft Windows Vista Home Premium 日本語版＋ Internet Information Services 7.0
  - ・Microsoft Windows Vista Home Basic 日本語版＋ Internet Information Services 7.0
  - ・Microsoft Windows Vista Enterprise 日本語版＋ Internet Information Services 7.0
  - ・日本語 Solaris Version 2.6 以降
  - ・Red Hat Linux 7.2 以降
  - ・Mac OS X
  - ・ImageWARE Gateway シリーズ
- 対応しているプロトコル
  - ・TCP/IPv4

### ■ NetBIOSネットワークを使用する場合

- 対応しているサーバ
  - ・Microsoft Windows 98/Me 日本語版
  - ・Microsoft Windows 2000 Server 日本語版
  - ・Microsoft Windows 2000 Professional 日本語版
  - ・Microsoft Windows XP Professional 日本語版
  - ・Microsoft Windows XP Home Edition 日本語版
  - ・Microsoft Windows Server 2003 日本語版
  - ・Microsoft Windows Vista Ultimate 日本語版
  - ・Microsoft Windows Vista Business 日本語版
  - ・Microsoft Windows Vista Home Premium 日本語版
  - ・Microsoft Windows Vista Home Basic 日本語版
  - ・Microsoft Windows Vista Enterprise 日本語版
- 対応しているファイル転送用サーバソフトウェア
  - ・Samba2.2.8a以降（UNIX/Linux）
- 対応しているプロトコル
  - ・NetBIOS over TCP/IP（NetBT）

- Windows 2000をお使いのときは、ServicePack 4以降をインストールしてください。
- IPv6には対応していません。

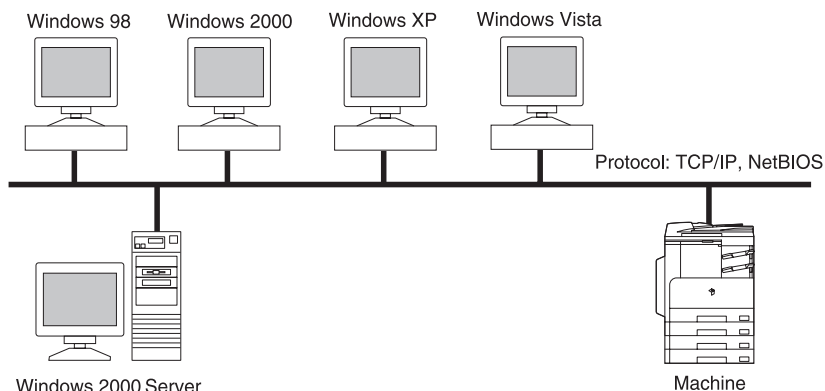
1
お使いになる前に

# お使いのネットワーク環境の確認



Windows のネットワーク環境の場合、プロトコルは TCP/IP、NetBIOS（NetBIOS over TCP/IP）のいずれかが使用できます。同時に複数のプロトコルを使用することもできます。

また、本製品は、IPv4（Internet Protocol Version 4）に加えて IPv6（Internet Protocol Version 6）にも対応しており、IPv4 ネットワークと IPv6 ネットワークの両方と通信できるデュアルスタック構成となっています。IPv4機能が常に有効な状態で、IPv6機能を使用するかどうかを選択することできます。

以下は Windows で構築されたネットワーク接続例です。お使いの用途に合わせて Mac OS X や Linux など他の OS を使用することもできます。(➞必要なオプションとシステム環境：P.1-2)

「第 2 章　ネットワークの共通設定」の設定を行ってから、「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用するには」または「第 4 章　NetBIOS ネットワークで使用するには」の設定を行ってください。

2

CHAPTER

# ネットワークの共通設定

本製品をネットワーク環境で使用するための設定項目について説明しています。TCP/IP の設定（第 3 章）を行う前に、必ず本章で説明する項目を設定してください。

# ネットワーク環境で使用するために必要な作業

本製品をネットワーク環境で使用するには、最初に以下の作業および設定を行います。



## 1 ケーブルの接続（→ P.2-3）

本製品をネットワークケーブルでネットワークに接続します。

## 2 インタフェースの設定（→ P.2-6）

本製品とネットワーク上のコンピュータが通信できるように設定します。以下のいずれかを使用して設定できます。

- 本製品の操作パネル
- Web ブラウザ（リモート UI）

## 3 通信環境の設定（→ P.2-10）

本製品とネットワーク上のコンピュータの通信環境を設定します。

重要　最初にインタフェースの設定を行うときは、本製品の操作パネルを使用してください。TCP/IP のプロトコル設定後は、Web ブラウザ（リモート UI）で設定内容を変更することができます。

# ケーブルの接続

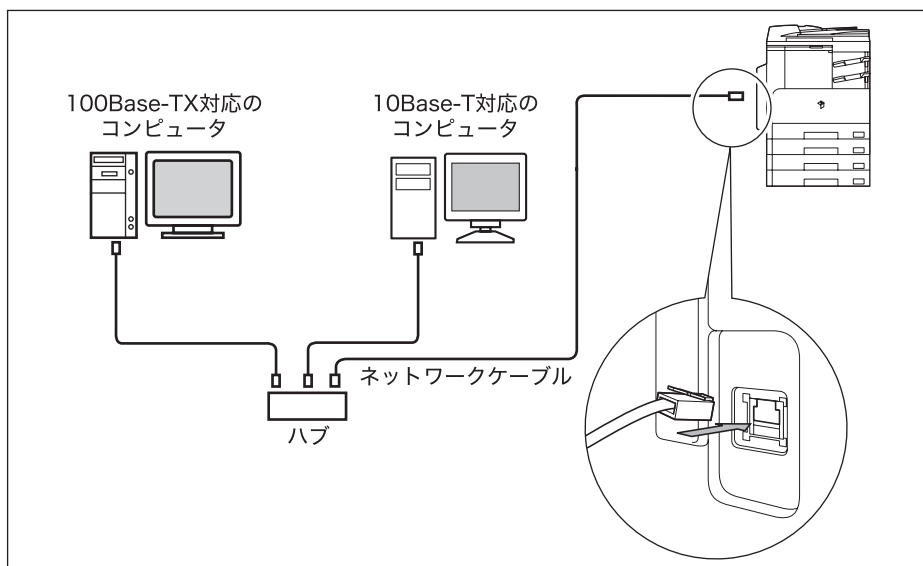
本製品を 100Base-TX または 10Base-T の Ethernet に対応したネットワークケーブルで、ネットワークに接続します。また、USB ケーブルで、コンピュータと USB 接続することもできます。

重要　本製品にネットワークケーブルや USB ケーブルは付属していません。あらかじめご使用のコンピュータやネットワークに合ったケーブル（別売）をご用意ください。



## ネットワークに接続する

本製品は、TCP/IP ネットワークに対応しており、Windows などのコンピュータと接続して使用することができます。また、本製品は、100Base-TX および 10Base-T の両方に対応しているので、多くの LAN へすぐに接続することができます。

カテゴリ 5 対応のツイストペアケーブルで、本製品の RJ-45 コネクタとハブのポートを接続します。ケーブルやハブなどは、必要に応じて別途ご用意ください。

警告　ネットワークケーブルを接続するときは、必ず本体右側面にある主電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。（➞ ユーザーズガイド「第 1 章　お使いになる前に」）感電の原因となることがあります。

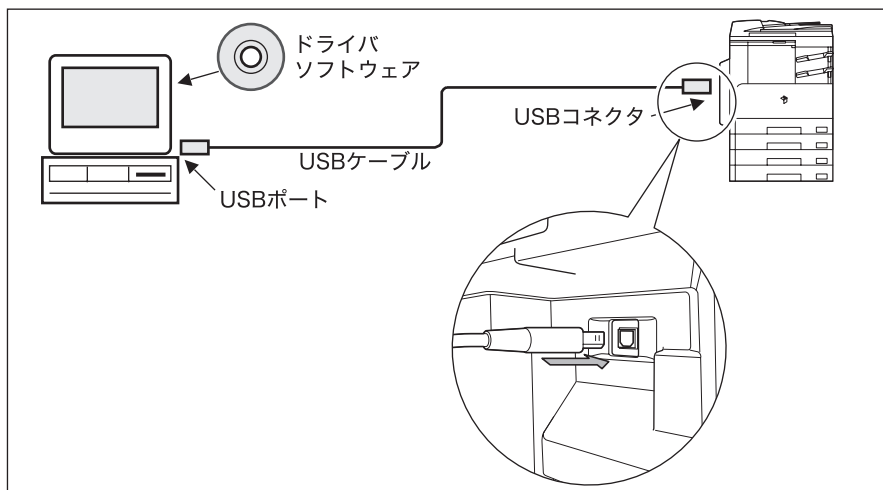
メモ

- 本製品は、Ethernet の種類（100Base-TX または 10Base-T）を自動認識します。
- 100Base-TX、10Base-T 対応の機器が混在しているときは、スイッチングハブなど、100Base-TX、10Base-T の両方に対応した機器が必要です。詳しくは、お買い求めの販売店、または担当サービスへお問い合わせください。
- ネットワークケーブルを接続したら、以下の作業を行います。設定方法については、各取扱説明書を参照してください。
  - ・日付／時刻の設定やシステム管理設定（➞ ユーザーズガイド「第 4 章　使いかたにあわせた仕様の設定」、「第 6 章　システム管理設定」）
  - ・各種ネットワークの設定
  - ・必要なドライバやユーティリティソフトウェアのインストール（➞ CARPS2 ソフトウェアガイド、またはファクスドライバガイド）



## USB で接続する

本製品は、USB ポートを装備したコンピュータと接続することもできます。

USB ケーブルで、本製品の USB コネクタとコンピュータの USB ポートを接続します。本製品は、USB 2.0 High-Speed に対応しています。コンピュータ本体には、使用している OS に合わせて本製品に付属の CD-ROM に収められているプリンタドライバやユーティリティソフトウェアをインストールします。プリンタドライバやユーティリティソフトウェアのインストールについては、「CARPS2 ソフトウェアガイド」を参照してください。

警告

- 電源をオンにした状態でUSBケーブルを接続するときは、アース線が接続されていることを確認してください。アース線が接続されていない状態で USB ケーブルを接続すると、感電の原因になります。
- 主電源スイッチをオンにした状態でUSBケーブルを抜き差しするときは、コネクタの金属部分に触れないでください。感電の原因になります。

重要

- 次のようなときは、USB ケーブルを抜き差ししないでください。コンピュータや本製品の動作不良の原因になります。
  ・ドライバのインストール中
  ・コンピュータの電源を入れたあとの OS 起動中
  ・プリント中
- コンピュータおよび本製品の主電源スイッチがオンになっている状態で USB ケーブルを抜き差しする場合は、抜いたあとに必ず 10 秒以上の間隔を空けてから差し込んでください。抜いた直後に差し込むと、コンピュータや本製品の動作不良の原因になります。
- 送受信の宛先として、USBケーブルで接続されたコンピュータを指定することはできません。また、USB ケーブルで接続されたコンピュータからはリモート UI、またはリモートスキャン機能を使用できません。

メモ

- 本製品をUSBケーブルでコンピュータに接続している場合、プリンタドライバを使用してコンピュータからドキュメントを印刷したり、ファクスドライバを使用してコンピュータからファクスを送信できます。
- USB インタフェースは、接続するコンピュータの OS によって、以下のように異なります。詳細については、お買い求めの販売店、または担当サービスへお問い合わせください。
  ・Windows 98/Me：USB Full-Speed（USB 1.1 相当）
  ・Windows 2000/XP/Server 2003/Vista：USB 2.0 Hi-Speed/USB Full-Speed（USB 1.1 相当）

# インタフェースの設定

ここでは、本製品の操作パネルを使用してインタフェースを設定する方法について説明しています。最初に設定を行うときは、本製品の操作パネルを使用してください。

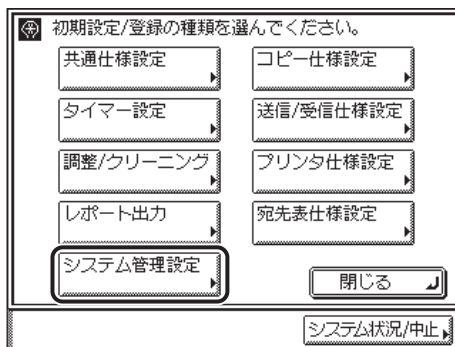


**重要**

- 最初にインタフェースの設定を行うときは、本製品の操作パネルを使用してください。TCP/IP のプロトコル設定後は、Web ブラウザ（リモート UI）で設定内容を変更することができます。
- 操作パネルで設定した内容は、本製品を再起動したとき（主電源を入れたとき）に有効になります。

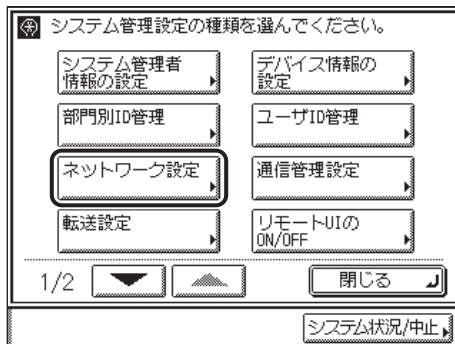
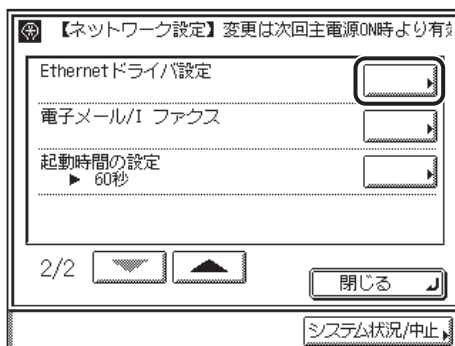
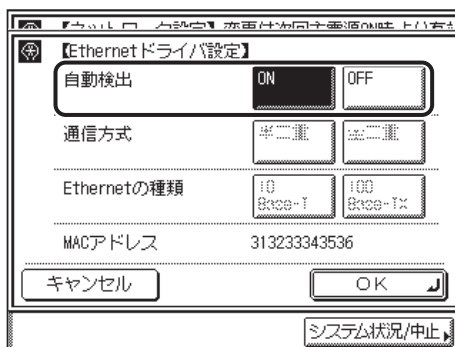
**メモ**

- Webブラウザ（リモートUI）の使用方法は、リモートUIガイド「第3章　使いかたにあわせた設定」を参照してください。
- タッチパネルの文字の入力方法の詳細は、ユーザーズガイド「第2章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。

**1** （初期設定 / 登録）を押します。

**2** ［システム管理設定］を押します。

**メモ**

タッチパネルに「システム管理部門 ID と暗証番号をテンキーで入力してください。」と表示された場合は、システム管理部門 ID とシステム管理暗証番号を入力してください。システム管理部門 ID とシステム管理暗証番号の入力については、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。

## 3 ［ネットワーク設定］を押します。

## 4 ［▼］［▲］を押して［Ethernet ドライバ設定］を表示させ、［Ethernet ドライバ設定］を押します。

## 5 ［自動検出］を設定します。

● **Ethernet の通信方式（半二重／全二重）、Ethernet の種類（10 Base-T/100 Base-TX）を自動的に判別する場合**

❑［ON］を選択したあと、手順 8 に進みます。

● **Ethernet の通信方式、Ethernet の種類を手動で設定する場合**

❑［OFF］を選択したあと、手順 6 に進みます。

重要　［ON］を選択した場合でも、本製品の電源を入れたまま、ネットワークケーブルを通信速度の異なるハブに接続したり、ネットワークケーブルを接続しなおしたりすると、自動検出できません。電源をいったん切り、10 秒以上たってから再度電源を入れてください。（ケーブルの接続は本製品の電源を切った状態で行ってください。）

メモ　本製品は Ethernet の形式を自動的に判別しますので、通常は［ON］を選択してください。Ethernet の形式の設定を固定したい場合は、［OFF］を選択してください。

## 6 お使いのネットワーク環境に合った通信方式を設定します。

● **送信と受信を同時に行わず、交互に行う場合**

❑［半二重］を選択します。

● **送信と受信を同時に行う場合**

❑［全二重］を選択します。

## 7 お使いのネットワーク環境に合った Ethernet の種類を設定します。

● **10BASE-T 接続する場合**

❑［10 Base-T］を選択します。

● **100BASE-TX 接続する場合**

❑［100 Base-TX］を選択します。

## 8 設定内容を確認したあと、［OK］を押します。

ネットワーク設定画面に戻ります。

## 9 初期設定 / 登録画面が閉じるまで、［閉じる］を繰り返し押します。

## 10 本製品を再起動します。

❑ 電源をいったん切り、10 秒以上たってから再度電源を入れます。

メモ
電源の入れかた／切りかたは、ユーザーズガイド「第 1 章　お使いになる前に」を参照してください。

---

これでインタフェースの設定は完了しました。

---

2
ネットワークの共通設定

# 通信環境の設定

ここでは、本製品とネットワーク上のコンピュータの通信環境を設定する方法について説明しています。最初に設定を行うときは、本製品の操作パネルを使用してください。

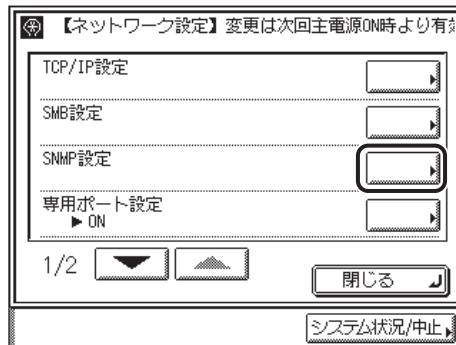
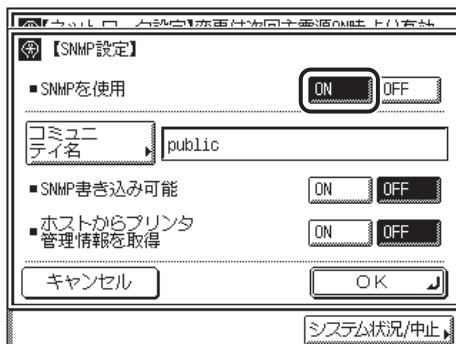
重要　操作パネルで設定した内容は、本製品を再起動したとき（主電源を入れたとき）に有効になります。

メモ
- TCP/IP のプロトコル設定後は、Web ブラウザ（リモート UI）で設定内容を変更することができます。
- タッチパネルの文字の入力方法の詳細は、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。

## 1 SNMP を設定します。

**● 情報の取得に SNMP を使用するユーティリティソフトウェアから本製品の各項目の設定や参照を可能にする場合**

❑ （初期設定 / 登録）→［システム管理設定］→［ネットワーク設定］を順に押します。

❑ ［SNMP 設定］を押します。

❑ ［SNMP を使用］の［ON］を選択します。

❑ ［コミュニティ名］を「public」以外の名称に変更する場合は、［コミュニティ名］を押して、コミュニティ名を入力します。

❑ ネットワーク上のコンピュータから SNMP 書き込みを可能にしたい場合は、［SNMP 書き込み可能］の［ON］を選択します。

❑ Windows Vista をお使いの場合でポートに [Standard TCP/IP Port] を設定したとき、SNMP によるポートモニタリング機能が自動的に有効にして、プリントアプリケーションやプリンタポートなどのプリンタ管理情報を取得する場合は、＜ホストからプリンタ管理情報を取得＞の [ON] を選択します。

❑ 設定内容を確認したあと、［OK］を押します。

● **上記の設定や参照を不可能にする場合**

❑ (初期設定 / 登録) → ［システム管理設定］→［ネットワーク設定］を順に押します。

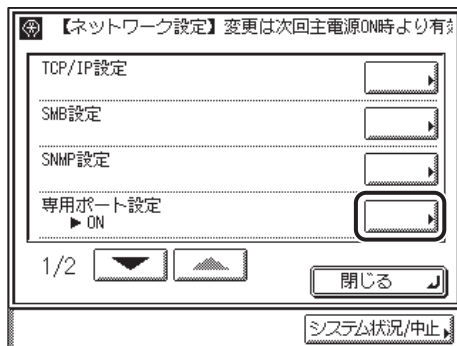
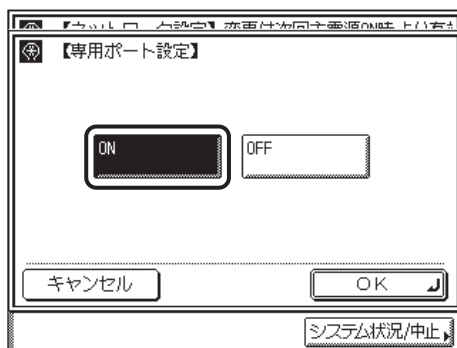
❑ ［▼］［▲］を押して［SNMP 設定］を表示させ、［SNMP 設定］を押します。

❑ ［SNMP を使用］の［OFF］を選択します。

❑ 設定内容を確認したあと、［OK］を押します。

## 2 専用ポートを設定します。

● **キヤノン製のドライバやユーティリティソフトウェアから本製品の詳細情報の設定や参照を可能にする場合**

❑ ネットワーク設定画面で［専用ポート設定］を押します。

❑ ［ON］を選択します。

❑ 設定内容を確認したあと、［OK］を押します。

ネットワーク設定画面に戻ります。

● **上記の設定や参照を不可能にする場合**

❑ ネットワーク設定画面で［専用ポート設定］を押します。

❑ ［OFF］を選択します。

❑ 設定内容を確認したあと、［OK］を押します。

ネットワーク設定画面に戻ります。

重要

- キヤノン製のドライバやユーティリティソフトウェアを使用する場合は、［SNMP を使用］と［専用ポート設定］を両方とも［ON］にしてください。
- 本製品は、設定値の設定や参照ができるコンピュータの IP アドレスを制限することができます。IP アドレスを制限すると、［SNMP を使用］、［専用ポート設定］が［ON］でも、設定や参照を許可された IP アドレスのコンピュータ以外からは設定／参照できなくなります。詳細は、「プロトコルの設定」（➞ P.3-3）を参照してください。
- IPv6 には対応していません。

**3 初期設定 / 登録画面が閉じるまで、［閉じる］を繰り返し押します。**

## 4 本製品を再起動します。

❑ 電源をいったん切り、10 秒以上たってから再度電源を入れます。

メモ　電源の入れかた／切りかたは、ユーザーズガイド「第 1 章　お使いになる前に」を参照してください。

これで通信環境の設定が完了しました。続いて、第 3 章の設定を行ってください。

# TCP/IP ネットワークで使用するには

3
CHAPTER

**本製品を TCP/IP ネットワークで使用するための設定方法について説明しています。**

# TCP/IP ネットワークで使用するために必要な作業

TCP/IP ネットワークで使用するために必要な作業は、次のとおりです。

## 1 プロトコルの設定（→ P.3-3）

プロトコルの設定を行います。以下のいずれかを使用して設定できます。

- 本製品の操作パネル
- Web ブラウザ（リモート UI）
- NetSpot Device Installer（キヤノン製のユーティリティソフトウェア）

## 2 印刷またはファクス送信を行うコンピュータの設定（→ P.3-47）

印刷またはファクス送信を行う各コンピュータの設定を行います。（コンピュータから印刷するには、オプションを追加する必要があります。必要なオプションについては、「必要なオプションとシステム環境」（→ P.1-2）を参照してください。）

## 3 ファイルサーバの設定（→ P.3-53）

コンピュータで本製品のデータを受け取るための設定を行います。

重要

- 手順 1 および 3 の作業は、ネットワーク管理者が行うことをおすすめします。
- 最初にプロトコルの設定を行うときは、本製品の操作パネルまたは NetSpot Device Installer を使用してください。プロトコルの設定後は、Web ブラウザ（リモート UI）で設定内容を変更することができます。

# プロトコルの設定

ここでは、本製品の操作パネルを使用してプロトコルを設定する方法について説明しています。最初に設定を行うときは、本製品の操作パネルを使用してください。

重要

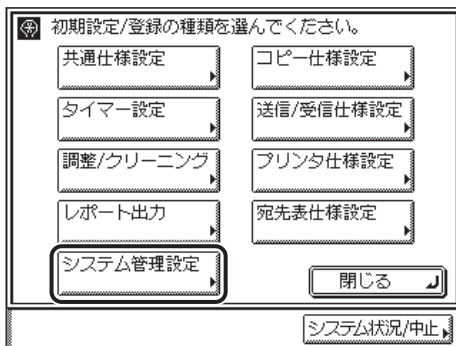
- 操作パネルで設定した内容は、本製品を再起動したとき（主電源を入れたとき）に有効になります。
- 最初にプロトコルの設定を行うときは、本製品の操作パネルまたは NetSpot Device Installer を使用してください。プロトコルの設定後は、Web ブラウザ（リモート UI）で設定内容を変更することができます。
- NetSpot Device Installer で設定することができるのは、本製品の項目の一部です。設定できる項目については、「ネットワーク設定項目一覧」（➞ P.6-2）を参照してください。
- 本製品では、本製品を使用できる機器の IP アドレスの範囲を設定することによって、セキュリティを高めることができます。
  本製品の各項目を設定、参照できるコンピュータの IP アドレスの範囲を設定すると、設定、参照を許可されていない IP アドレスのコンピュータ上ではリモート UI が使用できなくなり、そのコンピュータ上のユーティリティソフトウェアで本製品の情報を表示／設定することができなくなります。また、本製品へデータ（印刷／ファクス／I ファクス）を送信できるコンピュータの IP アドレスの範囲を設定すると、送信を許可されていない IP アドレスのコンピュータから本製品に送信されたデータは受信しないようになります。設定方法は、「TCP/IP の設定（IPv4）」（➞ P.3-4）の手順 9、または「TCP/IP の設定（IPv6）」（➞ P.3-24）の手順 7 を参照してください。（コンピュータから印刷するには、オプションを追加する必要があります。必要なオプションについては、「必要なオプションとシステム環境」（➞ P.1-2）を参照してください。）
- インターネット上の外部サーバにアクセスする機能をお使いのとき、ファイアウォールの設定などによってはアクセスできないことがあります。このような場合は、ネットワーク管理者にご確認ください。

メモ

- Web ブラウザ（リモート UI）の使用方法は、リモート UI ガイド「第 3 章 使いかたにあわせた設定」を参照してください。
- NetSpot Device Installer については、「ユーティリティソフトウェアを使用するには」（➞ P.6-9）を参照してください。
- タッチパネルの文字の入力方法の詳細は、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。

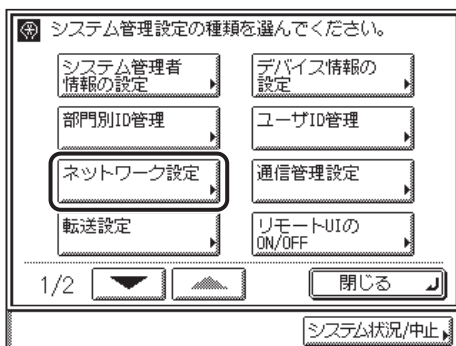
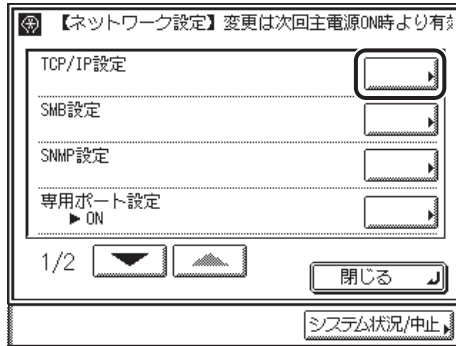
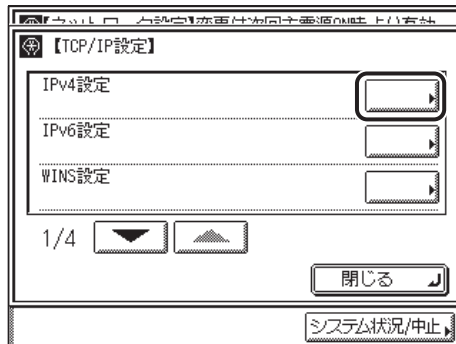
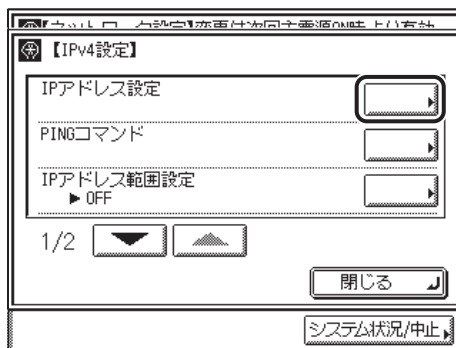
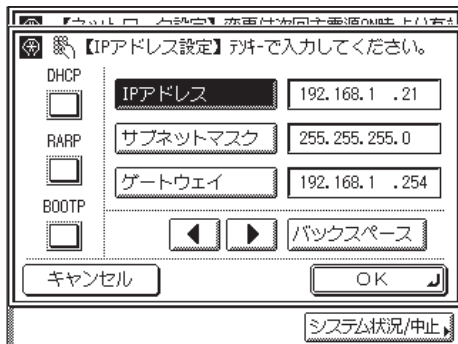
## TCP/IP の設定（IPv4）

操作パネルによる TCP/IPv4 の設定手順は、次のとおりです。TCP/IPv4 の設定後は、「TCP/IP の設定の確認（IPv4）」（→ P.3-23）で、ネットワークの設定が正しくできているかどうかを確認してください。

IPv6 通信を使用する場合は、「TCP/IP の設定（IPv6）」（→ P.3-24）の手順に従い必要な項目を設定したあと、「TCP/IP の設定の確認（IPv6）」（→ P.3-38）の手順に従って設定を確認してください。

**1** （初期設定 / 登録）を押します。

**2** ［システム管理設定］を押します。

メモ　タッチパネルに「システム管理部門 ID と暗証番号をテンキーで入力してください。」と表示された場合は、システム管理部門 ID とシステム管理暗証番号を入力してください。システム管理部門 ID とシステム管理暗証番号の入力については、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。

**3** ［ネットワーク設定］を押します。

## 4 [TCP/IP 設定] を押します。

## 5 [IPv4 設定] を押します。

## 6 [IP アドレス設定] を押します。

## 7 各項目を設定します。

### ● IP アドレスを固定で使用する場合

❑［IP アドレス］を押します。

❑ ⓪〜⑨（テンキー）で IP アドレスを入力します。

❑［サブネットマスク］と［ゲートウェイ］を、同様にして入力します。

### ● DHCP を使用する場合

❑［DHCP］を押して設定を [ON] にします。

❑［IP アドレス］、［サブネットマスク］、［ゲートウェイ］を入力します。

DHCP で情報を取得できなかった場合、ここで設定した値を使用します。

### ● RARP を使用する場合

❑［RARP］を押して設定を [ON] にします。

❑［IP アドレス］、［サブネットマスク］、［ゲートウェイ］を入力します。

RARP で情報取得できなかった場合、ここで設定した値を使用します。

### ● BOOTP を使用する場合

❑［BOOTP］を押して設定を [ON] にします。

❑［IP アドレス］、［サブネットマスク］、［ゲートウェイ］を入力します。

BOOTP で情報を取得できなかった場合、ここで設定した値を使用します。

メモ

- DHCP、BOOTP、RARP は、いずれか 1 つのみ選択することができます。
- DHCP、BOOTP、RARP のいずれかをお使いの場合でも、[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[ゲートウェイ] を設定しておくことをおすすめします。DHCP、BOOTP、RARP で情報を取得できなかった場合、操作パネルで設定した値を使用します。
- DHCP、BOOTP、RARP のいずれかを使用する設定を行ってから本製品を再起動すると、操作パネルの TCP/IP 設定画面には、これらから取得した値が表示されます。（あらかじめ各 IP アドレス、ホスト名、ドメイン名が設定してあった場合は、DHCP、BOOTP、RARP で取得できた項目については上書きされます。）
- DHCP を使用する場合、DNS の動的更新機能を使用しないときには、DHCP サーバで、常に本製品に同じ IP アドレスが割り当てられるように設定しておくことをおすすめします。(IP アドレスが同じでないと、本製品のホスト名と IP アドレスを対応させることができません。)
- DHCP、BOOTP、RARP を使用可能かどうかのチェックは、2 分程度かかりますので、使用しない場合は設定を OFF にしておくことをおすすめします。

### 8 設定内容を確認したあと、[OK] を押します。

### 9 本製品にアクセスできる IP アドレス範囲を設定します。

重要

- 本製品では、本製品を使用できる機器の IPv4 アドレスの範囲を設定することによって、セキュリティを高めることができます。
- 本製品の各項目を設定、参照できるコンピュータの IPv4 アドレスの範囲を設定すると、設定、参照を許可されていない IPv4 アドレスのコンピュータ上ではリモート UI が使用できなくなり、そのコンピュータ上のユーティリティソフトウェアで本製品の情報を表示／設定することができなくなります。また、本製品へデータ（印刷／ファクス／ I ファクス）を送信できるコンピュータの IPv4 アドレスの範囲を設定すると、送信を許可されていない IPv4 アドレスのコンピュータから本製品に送信されたデータは受信しないようになります。（お使いのモデルによっては、コンピュータから印刷、ファクス送信、I ファクス送信を行うには、オプションを追加する必要があります。それぞれに必要なオプションについては、「必要なオプションとシステム環境」（→ P.1-2）を参照してください。）

### ● IP アドレス範囲設定を使用する場合

❑ IPv4 設定画面で［IP アドレス範囲設定］を押します。

[ON] を選択したあと、［設定］を押します。

❑ ［登録］を押します。

❑ 許可する IPv4 アドレスを単独で設定する場合は［単一アドレス］を押して、IPv4 アドレスを入力したあと、［OK］を押します。

❑ 許可する IPv4 アドレスの範囲を設定する場合は［複数アドレス］を押して、［開始アドレス］と［終了アドレス］を設定したあと、［OK］を押します。

❑ IP アドレス範囲設定画面で、許可または拒否する IP アドレスまたは IP アドレス範囲を選択したあと、［許可／拒否］を押します。

選択する項目

［許可］： 設定した IPv4 アドレスまたは IPv4 アドレス範囲からのアクセスのみ許可します。

［拒否］： 設定した IPv4 アドレスまたは IPv4 アドレス範囲からのアクセスを拒否します。

❑ 設定内容を確認したあと、［OK］を押します。

● **IP アドレス範囲設定を使用しない場合**

❑ IPv4 設定画面で［IP アドレス範囲設定］を押します。

❑ ［OFF］を選択します。

重要

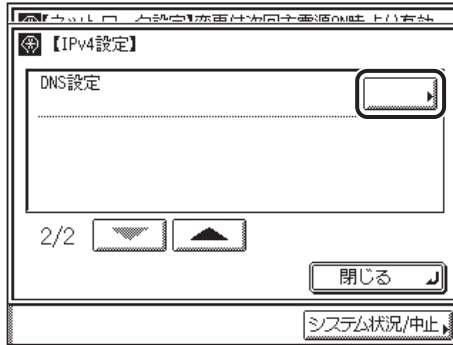
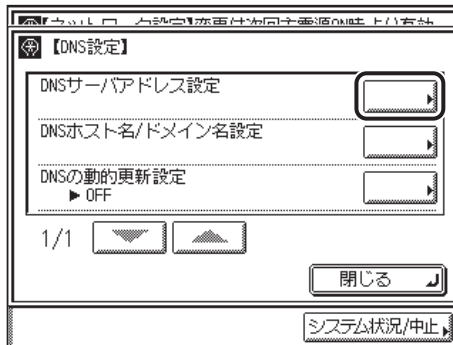
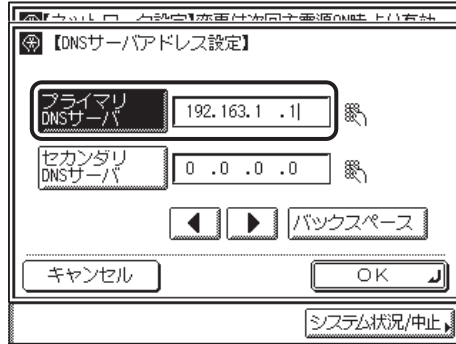
- IPv4 アドレスまたは IPv4 アドレス範囲は、それぞれ合計 10 個（10 組）まで設定することができます。
- IPv4 アドレスとして <0.0.0.0> は指定できません。
- 範囲を指定する場合、［開始アドレス］≦［終了アドレス］となるように入力してください。
- 使用しない設定になっているプロトコルやプリントアプリケーションは、使用を許可する IPv4 アドレスを設定しただけでは使用できません。各プロトコルや各プリントアプリケーションをそれぞれ使用できるように設定する必要があります。

メモ

- IPv4 アドレス、または IPv4 アドレス範囲を削除する場合は、IP アドレス範囲設定画面で、IPv4 アドレス、または IPv4 アドレス範囲を選択し、［消去］を押したあと、［はい］を選択します。
- IPv4 アドレス、または IPv4 アドレス範囲を編集する場合は、IP アドレス範囲設定画面で、IPv4 アドレス、または IPv4 アドレス範囲を選択し、［編集］を押します。手順が完了したら［OK］を押します。

## 10 ［OK］を押します。

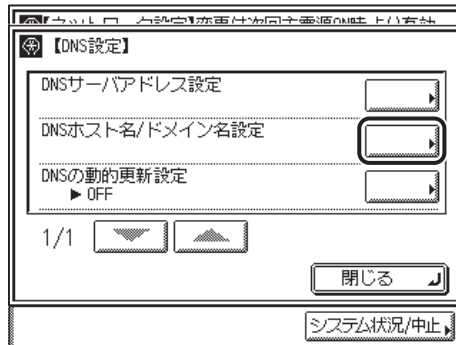
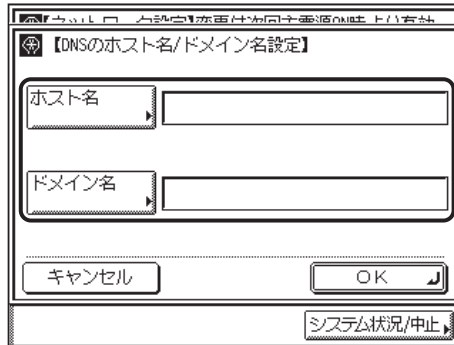
IPv4 設定画面に戻ります。

**11** DNS サーバ、DNS の動的更新機能を使用する場合は、IPv4 設定画面で、[▼][▲]を押して[DNS 設定]を表示させ、[DNS 設定]を押します。使用しない場合は、手順 21 に進みます。

**12** [DNS サーバアドレス設定]を押します。

## 13 DNS サーバの IPv4 アドレスを設定します。

⓪～⑨（テンキー）でアドレスを入力します。

DNS セカンダリサーバを設定しないときは、<0.0.0.0> を設定します。

**重要** 手順 7 で［BOOTP］、［DHCP］のいずれかを［ON］にした場合、手動で設定した DNS サーバアドレスは上書きされます。

## 14 ［OK］を押します。

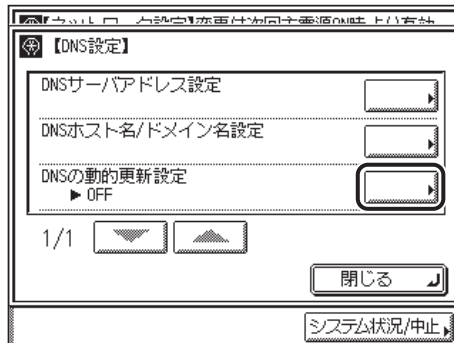
## 15 ［DNS のホスト名 / ドメイン名設定］を押します。

## 16 ホスト名、ドメイン名を入力します。

［ホスト名］には本製品の名称、［ドメイン名］には本製品が属するネットワークドメイン名を入力します。

入力例：［ホスト名］：host_name

［ドメイン名］：organization.company.com

重要　手順７で［BOOTP］、［DHCP］のいずれかを［ON］にした場合、手動で設定したドメイン名は上書きされます。

## 17 ［OK］を押します。

## 18 ［DNS の動的更新設定］を押します。

## 19 DNS の動的更新を設定します。

DNS サーバへの動的更新機能を使用する場合は［ON］を、使用しない場合は［OFF］を押します。

重要

- DNSの動的更新とは、デバイスのIPv4アドレス、ホスト名、ドメイン名に設定した名前を自動的にDNSサーバに登録する機能です。この機能は、ダイナミックDNSサーバがある環境で使用することができます。
- DNSの動的更新機能を使用するには、DNSサーバのIPv4アドレス、本製品のホスト名、ドメイン名の設定（手順12～17）が必要です。

メモ

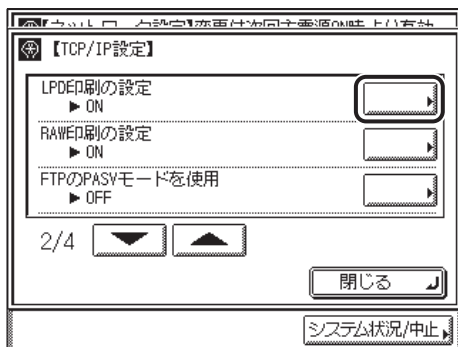
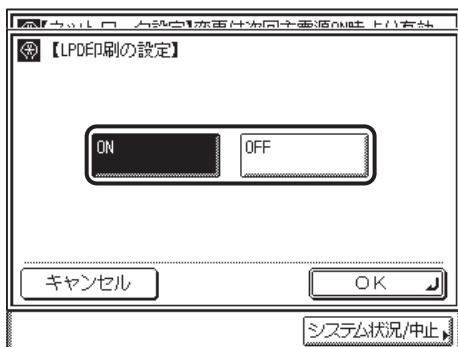
- Windows 2000 ServerをDHCPサーバにしてDHCPサービスを利用している場合に本製品のDNSレコードを登録したいときには、以下の設定をDHCPサーバ上で行ってください。
  - ・DHCPサーバの［スコープ］アイコンを右クリックして、ポップアップメニューから［プロパティ］を選択します。表示されたダイアログボックスの［DNS］ページで、［DNSのDHCPクライアント情報を自動的に更新する］にチェックマークを付けて、［DHCPクライアントから要求があったときのみDNSを更新する］を選択します。
- Windows Server 2003をDHCPサーバにしてDHCPサービスを利用している場合に本製品のDNSレコードを登録したいときには、以下の設定をDHCPサーバ上で行ってください。
  - ・DHCPサーバの［スコープ］アイコンを右クリックして、ポップアップメニューから［プロパティ］を選択します。表示されたダイアログボックスの［DNS］ページで、［以下の設定に基づいて、DNS動的更新を有効にする］にチェックマークを付けて、［DHCPクライアントから要求があったときのみDNSのAおよびPTRレコードを動的に更新する］を選択します。

## 20 ［OK］を押したあと、［閉じる］を押します。

## 21 ［閉じる］を押します。

TCP/IP設定画面に戻ります。

## 22 LPD 印刷の設定します。

❑ TCP/IP 設定画面で、［▼］［▲］を押して［LPD 印刷の設定］を表示させ、［LPD 設定］を押します。

❑ プリントアプリケーションとして LPD を使用する場合は［ON］を、使用しない場合は［OFF］を選択します。

❑ 設定内容を確認したあと、［OK］を押します。

TCP/IP 設定画面に戻ります。

## 23 Raw 印刷の設定します。

### ● プリントアプリケーションとして Raw を使用する場合

- ❑ TCP/IP 設定画面で、[▼][▲]を押して[RAW 印刷の設定]を表示させ、[RAW 設定]を押します。
- ❑ [RAW 印刷を使用]を[ON]にします。

- ❑ Port9100 を使用して双方向通信を行う場合は、[双方向を使用]を[ON]にします。
- ❑ 設定内容を確認したあと、[OK]を押します。

  TCP/IP 設定画面に戻ります。

### ● プリントアプリケーションとして Raw を使用しない場合

- ❑ TCP/IP 設定画面で、[▼][▲]を押して[RAW 設定]を表示させ、[RAW 設定]を押します。
- ❑ [RAW 印刷を使用]を[OFF]にします。
- ❑ 設定内容を確認したあと、[OK]を押します。

  TCP/IP 設定画面に戻ります。

## 24 FTP の PASV モードを設定します。

重要　FTP の PASV モードを使用するかどうかは、ご使用のネットワーク環境および送信先のファイルサーバの設定に依存します。FTP の PASV モードを設定する前に、必ずネットワーク管理者にご確認ください。

❑ TCP/IP 設定画面で、[▼] [▲] を押して [FTP の PASV モードを使用] を表示させ、[FTP の PASV モードを使用] を押します。

❑ FTP の PASV モードを使用する場合は、[ON] を、使用しない場合は [OFF] を選択します。

❑ 設定内容を確認したあと、[OK] を押します。

TCP/IP 設定画面に戻ります。

## 25 拡張 FTP を設定します。

メモ　imageWARE Document Manager へ送信する場合は、imageWARE Gateway シリーズで設定した FTP サーバを宛先として設定します。[拡張 FTP の ON/OFF] を [ON] に設定してください。imageWARE Document Manager と本製品の送信機能を組み合わせれば、電子化した紙文書とパソコンデータをネットワーク上で一元管理することなどが可能です。詳細は、imageWARE Gateway の取扱説明書を参照してください。

❑ TCP/IP 設定画面で、[▼] [▲] を押して [拡張 FTP の ON/OFF] を表示させ、[拡張 FTP の ON/OFF] を押します。

❑ 拡張FTPを使用する場合は、[ON]を、使用しない場合は[OFF]を選択します。

❑ 設定内容を確認したあと、[OK]を押します。

TCP/IP 設定画面に戻ります。

## *26* HTTP を設定します。

❑ TCP/IP 設定画面で、[▼][▲]を押して[HTTP を使用]を表示させ、[HTTP を使用]を押します。

❑ Web ブラウザ（リモート UI）を使用する場合は、[ON]を選択します。

[OFF]を選択した場合、[リモートUIのON/OFF]の設定は、自動的に[OFF]になります。

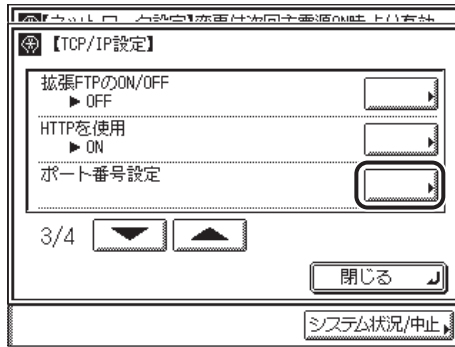
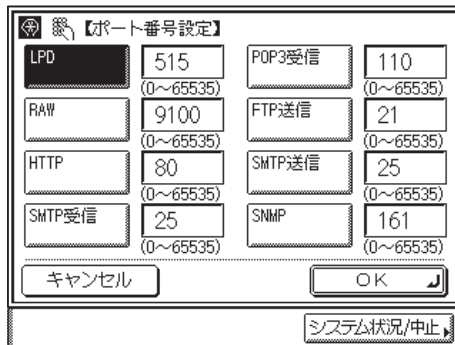
❑ 設定内容を確認したあと、[OK]を押します。

TCP/IP 設定画面に戻ります。

メモ　[リモート UI の ON/OFF]は、システム管理設定画面で設定する項目です。

## 27 ポート番号の設定をします。

### ● ポート番号を変更する場合

❑ TCP/IP 設定画面で、[▼] [▲] を押して [ポート番号設定] を表示させ、[ポート番号設定] を押します。

❑ 変更したいポートを選択したあと、⓪～⑨（テンキー）でポート番号を入力します。

❑ 設定内容を確認したあと、[OK] を押します。

TCP/IP 設定画面に戻ります。

### ● ポート番号を変更しない場合

❑ [ キャンセル ] を押します。

TCP/IP 設定画面に戻ります。

## 28 MAC アドレスフィルタの設定を行います。

### ● MAC アドレスフィルタを有効にする場合

❑ TCP/IP 設定画面で、[▼][▲]を押して[受信許可 MAC アドレス設定]を表示させ、[受信許可 MAC アドレス設定]を押します。

❑ [設定を有効にする]を[ON]にします。

❑ [登録]を押します。

❑ [C]を押して、許可する MAC アドレスを設定したあと、[OK]を押します。

❑ [OK]を押します。

TCP/IP 設定画面に戻ります。

**重要**

- MAC アドレスは、5 個まで設定することができます。
- [設定を有効にする]を[ON]にすると、許可されていない MAC アドレスからのアクセスができなくなります。そのため、設定の際には MAC アドレスをよく確認してください。

**メモ**

- MAC アドレスを削除する場合は、受信許可 MAC アドレス設定画面で MAC アドレスを選択し、[ 消去 ] を押したあと、[ はい ] を選択します。
- MAC アドレスを編集する場合は、受信許可 MAC アドレス設定画面で IMAC アドレスを選択し、[ 編集 ] を押します。手順が完了したら [OK] を押します。

● MAC アドレスフィルタを無効にする場合

❑ TCP/IP 設定画面で、[▼][▲] を押して [受信許可 MAC アドレス設定] を表示させ、[受信許可 MAC アドレス設定] を押します。

❑ [設定を有効にする] を [OFF] にします。

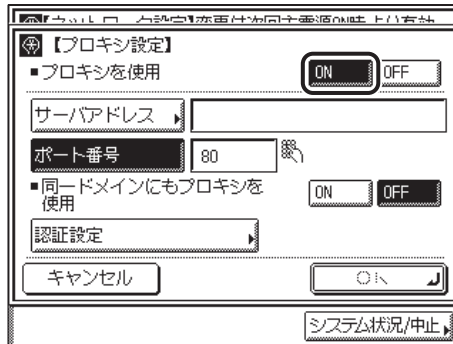
❑ [OK] を押します。

TCP/IP 設定画面に戻ります。

## 29 プロキシを設定します。

● プロキシを使用する場合

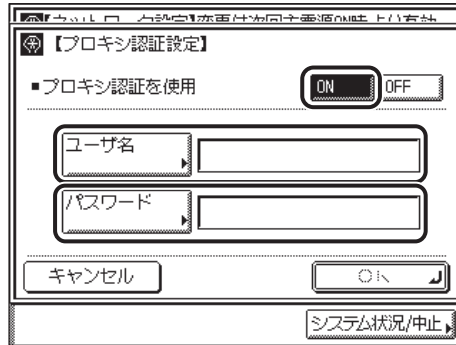
❑ TCP/IP 設定画面で、[▼][▲] を押して [プロキシ設定] を表示させ、[プロキシ設定] を押します。

❑ [プロキシを使用] を [ON] にします。

❑ [サーバアドレス] を押して、プロキシサーバの IP アドレス、または FQDN (starfish.company.com のような形式) を入力し、[OK] を押します。

❑ [ポート番号] を押して、⓪～⑨(テンキー) でプロキシサーバのポート番号を入力します。

❑ 同一ドメインにもプロキシを使用する場合は、[同一ドメインにもプロキシを使用] を [ON] にします。それ以外の場合は、[OFF] にします。

❑ [認証設定] を押します。

❏ プロキシ認証を使用する場合は［プロキシ認証を使用］を［ON］にして、［ユーザ名］にプロキシ認証で使用するユーザ名を、［パスワード］にプロキシ認証で使用するパスワードを入力します。

プロキシ認証を使用しない場合は、［OFF］を選択してください。

❏ 設定内容を確認したあと、［OK］を押します。

❏ プロキシ設定画面で [OK] を押します。

TCP/IP 設定画面に戻ります。

● **プロキシを使用しない場合**

❏ TCP/IP 設定画面で、［▼］［▲］を押して［プロキシ設定］を表示させ、［プロキシ設定］を押します。

❏ ［プロキシを使用］を［OFF］にします。

❏ 設定内容を確認したあと、［OK］を押します。

TCP/IP 設定画面に戻ります。

**30** **初期設定 / 登録画面が閉じるまで、［閉じる］を繰り返し押します。**

**31** **本製品を再起動します。**

❏ 電源をいったん切り、10 秒以上たってから再度電源を入れます。

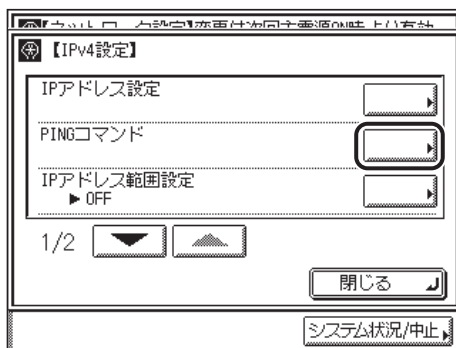
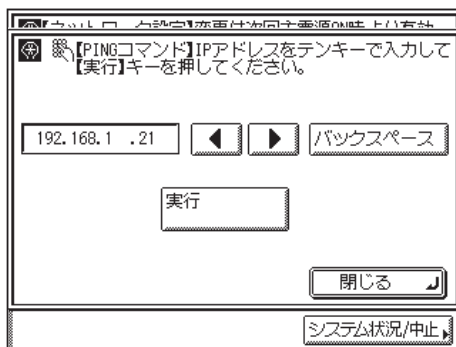
メモ　電源の入れかた／切りかたは、ユーザーズガイド「第 1 章　お使いになる前に」を参照してください。

これで TCP/IPv4 の設定は完了しました。

## TCP/IP の設定の確認（IPv4）

ここでは、ネットワークの設定が正しくできているかどうかを確認します。

**1** (初期設定 / 登録) → ［システム管理設定］ → ［ネットワーク設定］ → ［TCP/IP 設定］ → ［IPv4 設定］を順に押します。

**2** ［PING コマンド］を押します。

**3** 以下を確認します。

ネットワーク上に存在する任意の IPv4 アドレスを入力したあと［実行］を押すと、タッチパネルディスプレイに PING コマンドの実行結果が表示されます。

正しく設定できていなかった場合は、「インタフェースの設定」(→ P.2-6)、「TCP/IP の設定（IPv4）」(→ P.3-4）の設定内容を確認します。

**重要**

- 「起動時間の設定」(➞ P.3-45) で本製品のネットワーク部の起動時間を設定している場合は、本製品の主電源を入れたあと、[起動時間の設定] で設定した時間が経過してから PING コマンドを実行してください。
- 本製品をスイッチングハブなどに接続している場合、ネットワークの設定が正しくても、ネットワークへの接続ができないことがあります。
  この場合は、本製品のネットワーク部分の起動時間を遅らせることで解決できることがあります。起動時間の設定方法は「起動時間の設定」(➞ P.3-45) を参照してください。

**4** **初期設定 / 登録画面が閉じるまで、[閉じる] を繰り返し押します。**

## TCP/IP の設定 (IPv6)

ここでは、本製品の操作パネルで TCP/IPv6 の設定を行う方法について説明しています。

TCP/IPv6 の設定後は、「TCP/IP の設定の確認 (IPv6)」(➞ P.3-38) で、ネットワークの設定が正しくできているかどうかを確認してください。

本製品では、以下の IPv6 アドレスを最大で 7 個まで登録することができます。IPv6 通信では、複数の IPv6 アドレスを同時に使用できます。

**重要** IPv4 機能を使用せずに、IPv6 機能だけを使用することはできません。

■ **リンクローカルアドレス (1 個)**

同一リンク内でのみ有効なアドレスです。リンクローカルアドレスは、特定のプレフィックス (fe80::) と、本製品の MAC アドレスから生成したインタフェース識別子から自動的に設定されます。本製品では、IPv6 機能を使用している場合、常に 1 個のリンクローカルアドレスが登録されています。

■ **手動アドレス (0 〜 1 個)**

操作パネルからの入力によって設定する、固定のアドレスです。

■ **ステートレスアドレス (0 〜 6 個)**

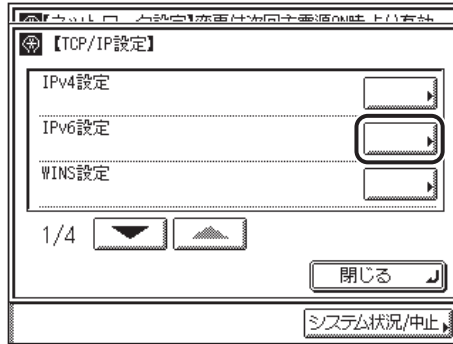
ステートレスアドレスは、本製品の起動時に、ルータから通知される RA (Router Advertisement) に含まれるプレフィックス (所属するネットワークを示す情報) と本製品の MAC アドレスを使用して自動的に設定されます。

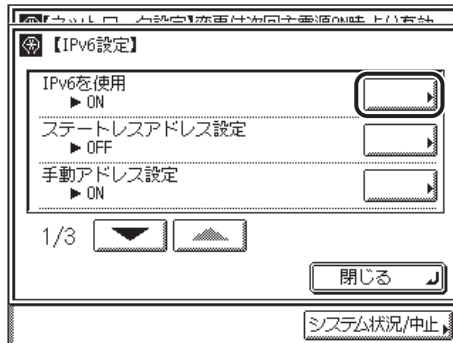
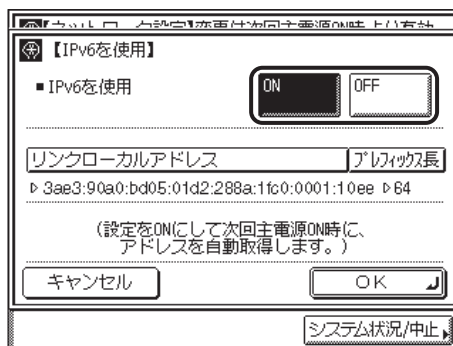
■ **ステートフルアドレス (0 〜 1 個)**

ステートフルアドレスは、DHCPv6 を使用して、DHCP サーバから取得することができます。

---

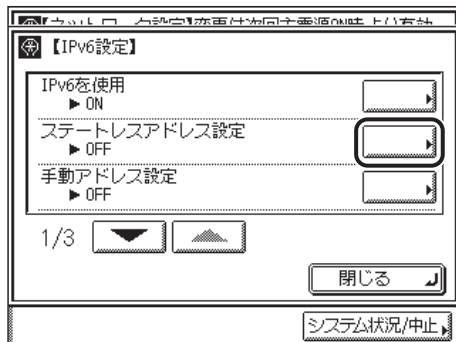
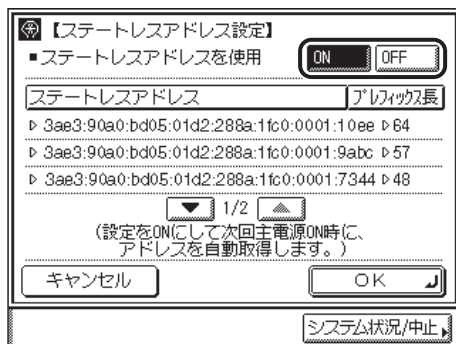
**1** **(初期設定 / 登録) ➞ [システム管理設定] ➞ [ネットワーク設定] ➞ [TCP/IP 設定] を順に押します。**

## 2 ［IPv6 設定］を押します。

## 3 IPv6 の使用を設定します。

❑ IPv6 設定画面で [IPv6 を使用 ] を押します。

❑ ＩPv6 ネットワークを使用する場合は [IPv6 を使用 ] を [ON] を、使用しない場合は［OFF］を選択します。

メモ　[IPv6 を使用 ] を［ON］した場合、リンクローカルアドレスが自動的に設定されます。

❑ 設定内容を確認したあと、［OK］を押します。

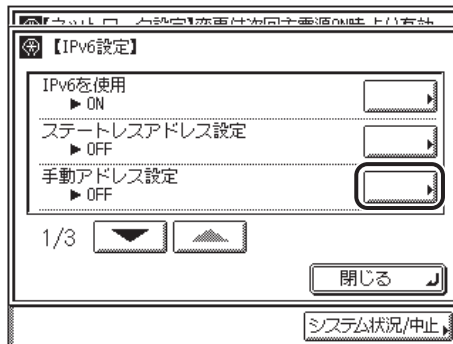
## 4 ステートレスアドレスを設定します。

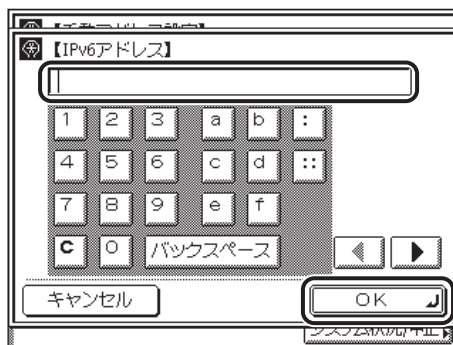
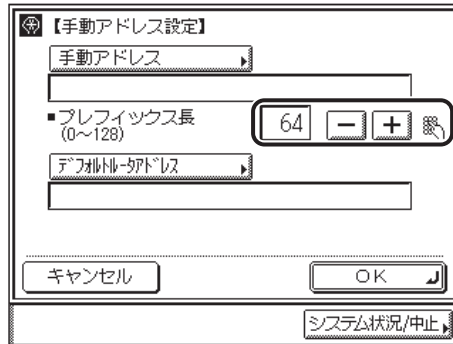
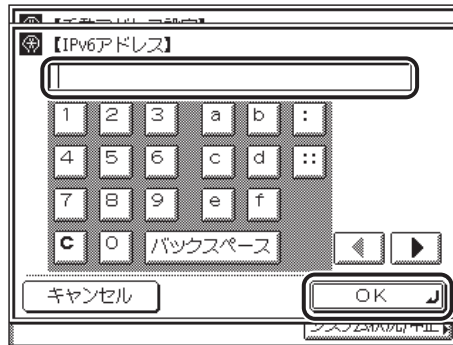
❑ IPv6 設定画面で［ステートレスアドレス設定］を押します。

❑ 本製品の起動時に、ステートレスアドレスを自動的に設定する場合は [ ステートレスアドレスを使用 ] を [ON] に、設定しない場合は [OFF] を選択します。

メモ　ステートレスアドレスは、本製品を再起動したとき（主電源を入れたとき）に破棄されます。

❑ 設定内容を確認したあと、［OK］を押します。

## 5 手動アドレスを設定します。

● **IPv6 アドレスを手動で設定する場合**

❏ IPv6 設定画面で［手動アドレス設定］を押します。

❏ ［ON］を押したあと、［設定］を押します。

❏ ［手動アドレス］を押して、［IPv6 アドレス］を入力したあと、[OK] を押します。

❏ <プレフィックス長>で IPv6 アドレスのプレフィックス長を入力します。

❏ [デフォルトルータアドレス] を押して、デフォルトルータアドレスを入力したあと、[OK] を押します。

❏ 設定内容を確認したあと、[OK] を押します。

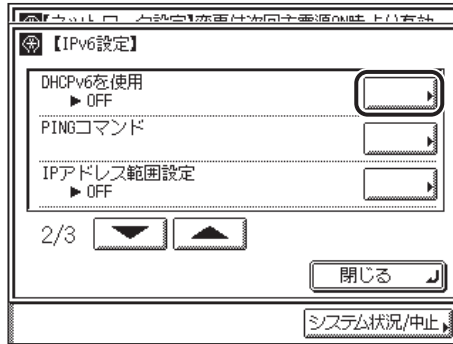
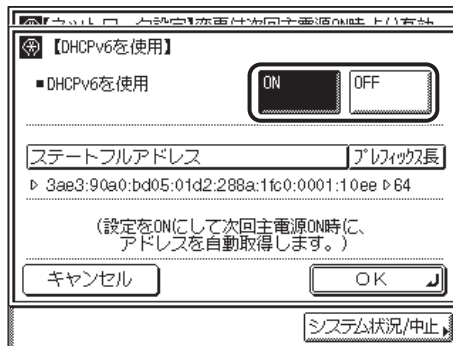
❏ [OK] を押します。

● **IPv6 アドレスを手動で設定しない場合**

❏ IPv6 設定画面で [手動アドレス設定] を押します。

❏ [OFF] を押したあと、[OK] を押します。

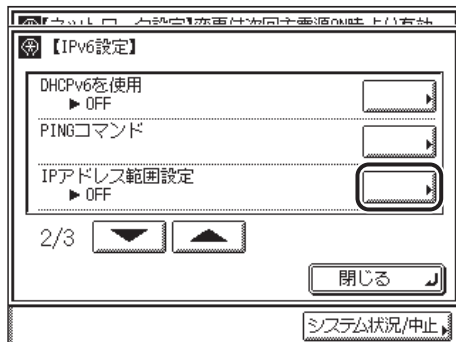
## 6 DHCPv6 の使用を設定します。

❑ IPv6 設定画面で、[▼][▲]を押して[DHCPv6 を使用]を表示させ、[DHCPv6 を使用]を押します。

DHCPv6 を使用して、DHCP サーバからステートフルアドレスを取得する場合は ＜ DHCPv6 を使用＞を [ON] に、取得しない場合は［OFF］を選択します。

❑ 設定内容を確認したあと、［OK］を押します。

## 7 本製品にアクセスできる IP アドレス範囲を設定します。

**重要** 本製品では、本製品を使用できる機器の IPv6 アドレスの範囲を設定することによって、セキュリティを高めることができます。
本製品の各項目を設定、参照できるコンピュータの IPv6 アドレスの範囲を設定すると、設定、参照を許可されていない IPv6 アドレスのコンピュータ上ではリモート UI が使用できなくなり、そのコンピュータ上のユーティリティソフトウェアで本製品の情報を表示／設定することができなくなります。また、本製品へデータ（印刷／ファクス／I ファクス）を送信できるコンピュータの IPv6 アドレスの範囲を設定すると、送信を許可されていない IPv6 アドレスのコンピュータから本製品に送信されたデータは受信しないようになります。（お使いのモデルによっては、コンピュータから印刷、ファクス送信、I ファクス送信を行うには、オプションを追加する必要があります。それぞれに必要なオプションについては、「必要なオプションとシステム環境」（➞ P.1-2）を参照してください。）

● **IP アドレス範囲設定を使用する場合**

❏ IPv6 設定画面で、[▼] [▲] を押して [IP アドレス範囲設定] を表示させ、[IP アドレス範囲設定] を押します。

❏ [ON] を押したあと、[設定] を押します。

❏ [登録] を押します。

❑ 許可または拒否する IPｖ6 アドレスを単独で設定する場合は［単一アドレス］を押します。

❑ ［アドレス］を押して、ＩPv6 アドレスを入力したあと、［OK］を押します。

❑ ［OK］を押します。

IP アドレス範囲設定画面に戻ります。

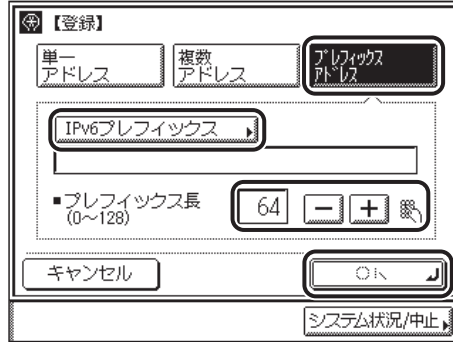
❑ 許可または拒否する IPｖ6 アドレス範囲を設定する場合は［複数アドレス］を押します。

❑ ［開始アドレス］を押して、開始アドレスを入力したあと、［OK］を押します。

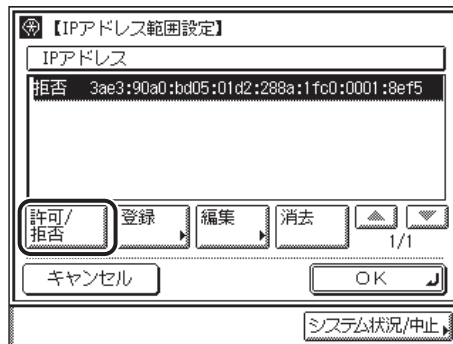
❑ ［終了アドレス］を押して、終了アドレスを入力したあと、［OK］を押します。

❑ 設定内容を確認したあと、［OK］を押します。

IP アドレス範囲設定画面に戻ります。

❑ 許可または拒否する IPv6 プレフィックスアドレスを設定する場合は［プレフィックス］を押します。

❑［IPv6 プレフィックス］を押して、IPv6 プレフィックスアドレスを入力したあと、［OK］を押します。

❑［OK］を押します。

❑ IP アドレス範囲設定画面で、許可または拒否する IP アドレス、IP アドレス範囲、または IPv6 プレフィックスアドレスを選択したあと、［許可／拒否］を押します。

選択する項目

[ 許可 ]：　設定した IP アドレス、IP アドレス範囲、または IPv6 プレフィックスアドレスのみ許可します。

[ 拒否 ]：　設定した IP アドレス、IP アドレス範囲、または IPv6 プレフィックスアドレスのみ拒否します。

❑［OK］を押します。

### ● IP アドレス範囲設定を使用しない場合

❑ IPv6 設定画面で、［▼］［▲］を押して、［IP アドレス範囲設定］を表示させ、［IP アドレス範囲設定］を押します。

❑［OFF］を押します。

重要

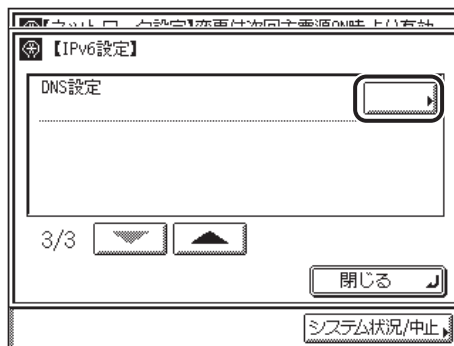
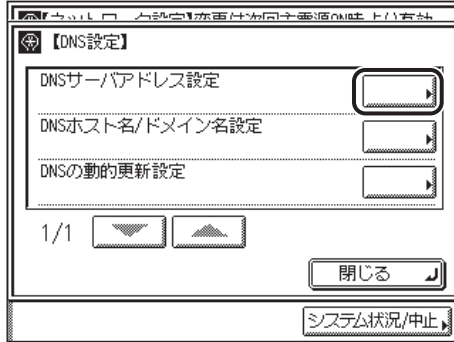
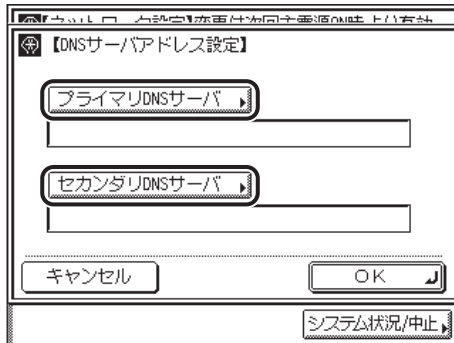
- IPv6アドレス、IPv6アドレス範囲、またはIPv6アドレスのプレフィックスは、それぞれ合計10個（10組）まで設定することができます。
- IPv6アドレスとして、マルチキャストアドレス、すべて0で構成されるアドレスは指定できません。
- ［プレフィックス長］に「0」を入力した場合は、すべてのIPv6アドレスが拒否IPv6アドレスとなります。
- ［プレフィックス長］に「128」を入力した場合は、本製品のIPv6アドレスが拒否IPv6アドレスとなります。
- 範囲を指定する場合、［開始アドレス］≦［終了アドレス］となるように入力してください。
- 使用しない設定になっているプロトコルやプリントアプリケーションは、使用を許可するIPv6アドレスを設定しただけでは使用できません。各プロトコルや各プリントアプリケーションをそれぞれ使用できるように設定する必要があります。

メモ

- IPv6アドレス、IPv6アドレス範囲、またはIPv6アドレスのプレフィックスを削除する場合は、IPアドレス範囲設定画面で、IPv6アドレス、IPv6アドレス範囲、またはIPv6アドレスのプレフィックスを選択し、[消去]を押したあと、[はい]を選択します。
- IPv6アドレス、IPv6アドレス範囲、またはIPv6アドレスのプレフィックスを編集する場合は、IPアドレス範囲設定画面で、IPv6アドレス、IPv6アドレス範囲、またはIPv6アドレスのプレフィックスを選択し、[編集]を押します。手順が完了したら[OK]を押します。

**8** **［OK］を押します。**

**9** **DNSサーバ、DNSの動的更新機能を使用する場合は、IPv6設定画面で、［▼］［▲］を押して［DNS設定］を表示させ、［DNS設定］を押します。使用しない場合は、手順18に進みます。**

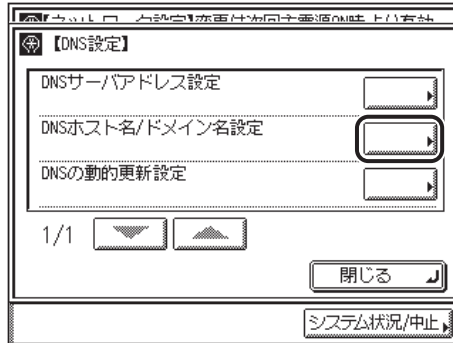
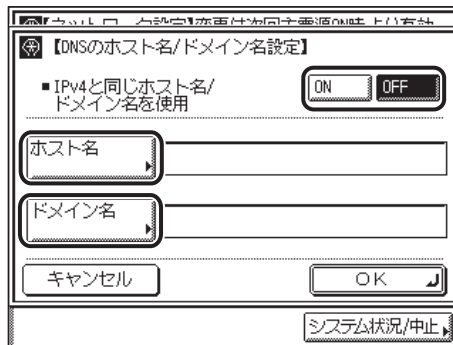
3 TCP/IPネットワークで使用するには

## 10 ［DNS サーバアドレス設定］を押します。

## 11 DNS サーバの IPv6 アドレスを設定します。

❑ [プライマリDNSサーバ]を押して、プライマリDNSサーバのIPv6アドレスを入力したあと、［OK］を押します。

❑ [セカンダリDNSサーバ]を押して、DNSサーバのIPv6アドレスを入力したあと、［OK］を押します。セカンダリ DNS サーバを指定しない場合は、［セカンダリ DNS サーバ］を空欄にしてください。

❑ ［OK］を押します。

重要

- ［プライマリ DNS サーバ］、および［セカンダリ DNS サーバ］に、マルチキャストアドレス、およびすべて 0 で構成されるアドレスを設定することはできません。
- 手順6で＜DHCPv6を使用＞を[ON]にした場合、手動で設定したDNSサーバのIPv6アドレスは上書きされます。

## 12 [DNS ホスト名 / ドメイン名設定] を押します。

## 13 DNS サーバのホスト名とドメイン名を設定します。

● **IPv6 通信で IPv4 通信と同じホスト名、ドメイン名を使用する場合**

❑ <IPv4 と同じホスト名 / ドメイン名を使用>で [ON] を選択します。

● **IPv6 通信でホスト名、ドメイン名を設定する場合**

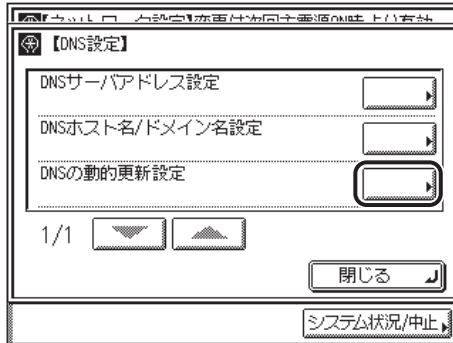
❑ <IPv4 と同じホスト名 / ドメイン名を使用>で [OFF] を選択します。

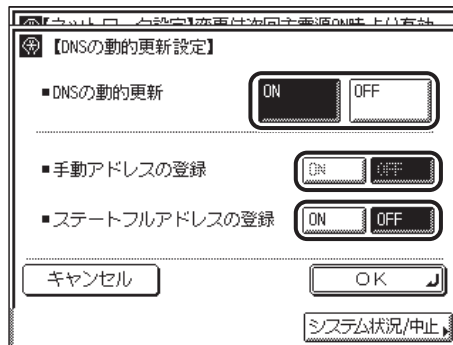
❑ [ホスト名] には本製品の名称、[ドメイン名] には本製品が属するネットワークドメイン名を入力します。

入力例：［ホスト名］：host_name
［ドメイン名］：organization.company.com

重要　手順 6 で<DHCPv6 を使用>を [ON] にした場合、手動で設定したドメイン名は上書きされます。

## 14 [OK] を押します。

## 15 [DNS の動的更新設定] を押します。

## 16 DNS の動的更新機能を設定します。

❑ ダイナミックDNSサーバがある環境で、デバイスのIPv6アドレス、ホスト名、ドメイン名に設定した名前を、DNS の動的更新機能によって自動的に DNS サーバに登録する場合は、<DNS の動的更新設定>を [ON] にします。

❑ DNS の動的更新機能によって、手動アドレスを自動的にDNSサーバに登録する場合は、＜手動アドレスの登録＞を [ON] にします。

❑ DNS の動的更新機能によって、ステートフルアドレスを自動的にDNSサーバに登録する場合は、＜ステートフルアドレスの登録＞を [ON] にします。

重要　Windows 2000 Server と Windows Server 2003 は、DHCPv6 サーバには対応していません。

## 17 [OK] を押したあと、[ 閉じる ] を押します。

## 18 [ 閉じる ] を押します。

## 19 LPD印刷の設定をします。

メモ　詳細については、「TCP/IPの設定（IPv4）」（→P.3-4）」の手順22を参照してください。

## 20 Raw印刷の設定をします。

メモ　詳細については、「TCP/IPの設定（IPv4）」（→P.3-4）」の手順23を参照してください。

## 21 HTTPを設定します。

メモ　詳細については、「TCP/IPの設定（IPv4）」（→P.3-4）」の手順26を参照してください。

## 22 ポート番号の設定をします。

メモ　詳細については、「TCP/IPの設定（IPv4）」（→P.3-4）」の手順27を参照してください。

## 23 初期設定/登録画面が閉じるまで、［閉じる］を繰り返し押します。

## 24 本製品を再起動します。

❑ 電源をいったん切り、10秒以上たってから再度電源を入れます。

メモ　電源の入れかた／切りかたは、ユーザーズガイド「第1章　お使いになる前に」を参照してください。

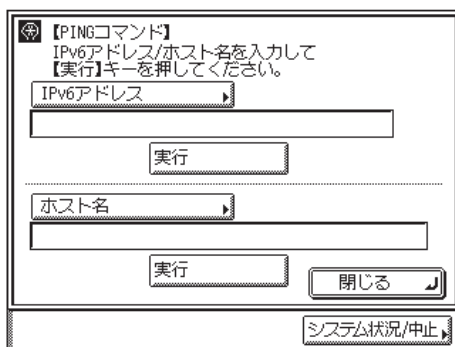
これでTCP/IPv6の設定は完了しました。

## TCP/IP の設定の確認（IPv6）

ここでは、ネットワークの設定が正しくできているかどうかを確認します。

**1** （初期設定 / 登録）→［システム管理設定］→［ネットワーク設定］→［TCP/IP 設定］→［IPv6 設定］を順に押します。

**2** IPv6 設定画面で、［▼］［▲］を押して［PING コマンド］を表示させ、［PING コマンド］を押します。

**3** 以下を確認します。

ネットワーク上に存在する任意の IPv6 アドレスを入力したあと［実行］を押すと、タッチパネルディスプレイに PING コマンドの実行結果が表示されます。

正しく設定できていなかった場合は、「インタフェースの設定」（→ P.2-6）、「TCP/IP の設定（IPv4）」（→ P.3-4）の設定内容を確認します。

重要
- 「起動時間の設定」（→ P.3-45）で本製品のネットワーク部の起動時間を設定している場合は、本製品の主電源を入れたあと、［起動時間の設定］で設定した時間が経過してから PING コマンドを実行してください。
- 本製品をスイッチングハブなどに接続している場合、ネットワークの設定が正しくても、ネットワークへの接続ができないことがあります。
この場合は、本製品のネットワーク部分の起動時間を遅らせることで解決できることがあります。起動時間の設定方法は「起動時間の設定」（→ P.3-45）を参照してください。

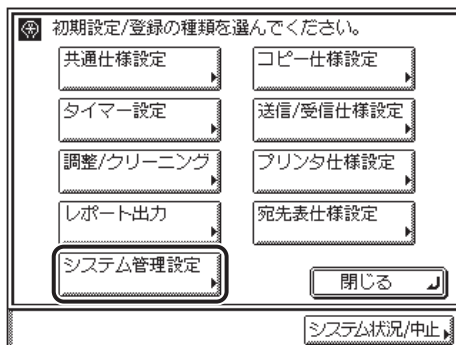
**4** 初期設定 / 登録画面が閉じるまで、［閉じる］を繰り返し押します。

## 電子メール／Iファクスの設定

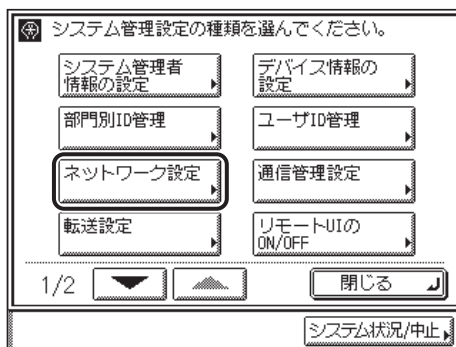
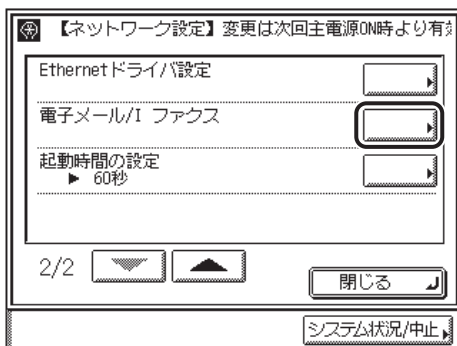
重要

- 電子メール／Iファクス機能を使用するには、オプションを追加する必要があります。必要なオプションについては、「必要なオプションとシステム環境」（→ P.1-2）を参照してください。
- IPv6 には対応していません。

**1** （初期設定 / 登録）を押します。

**2** ［システム管理設定］を押します。

メモ

タッチパネルに「システム管理部門 ID と暗証番号をテンキーで入力してください。」と表示された場合は、システム管理部門 ID とシステム管理暗証番号を入力してください。システム管理部門 ID とシステム管理暗証番号の入力については、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。

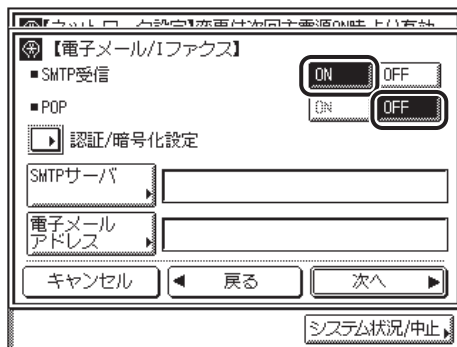
**3** ［ネットワーク設定］を押します。

## 4 ［▼］［▲］を押して［電子メール /I ファクス］を表示させ、［電子メール /I ファクス］を押します。

## 5 電子メール /I ファクスを受信するためのメールサーバを設定します。

本製品の受信機能は SMTP、POP3 双方をサポートしています。

メモ　本製品が受信できる電子メールは、I ファクス画像と、通信時にエラーが発生した場合のエラーメールのみです。

### ● 電子メール /I ファクスを本製品の SMTP 受信機能を使用して受信する場合

❑ 本製品のホスト名を DNS サーバに登録します。

❑［SMTP 受信］を［ON］に、［POP］を［OFF］にします。

❑ ［電子メールアドレス］を押して、本製品の電子メールアドレスを入力したあと、[OK] を押します。

入力例： ifax@host_name.organization.company.com

● **電子メール /I ファクスを POP サーバを使用して受信する場合**

❑ ［SMTP 受信］を［OFF］に、［POP］を［ON］にします。

❑ ［電子メールアドレス］を押して、本製品の電子メールアドレスを入力したあと、[OK] を押します。

入力例： account1@pop_server.organization.company.com
（POP サーバの名称が pop_server.organization.company.com の場合）

❑ ［次へ］を押します。

❑ [POP サーバ] を押して、POP サーバの IP アドレスまたは名称を入力したあと、[OK] を押します。

入力例： IP アドレス：192.168.1.1

名称：pop_server.organization.company.com

❑ [POP アドレス]を押して、POP サーバにアクセスするときのログイン名を入力したあと、[OK] を押します。

入力例： account1

❑ [POP パスワード]を押して、POP サーバにアクセスするときのパスワードを入力したあと、[OK] を押します。

❏ ［−］［+］、または⓪〜⑨（テンキー）で、POP サーバに対して受信メールを確認する［POP 発行間隔］を設定します。

「 0 」に設定した場合、POP の自動発行は行いません。手動で受信する方法は、送信／ファクスガイド「第 7 章　送信／受信状況の確認と変更」を参照してください。

❏ ［戻る］を押します。

## 6 電子メール /I ファクスを送信するためのメールサーバを設定します。

● **POP サーバにログインしてからメールを送信する方式（POP before SMTP）の SMTP サーバをお使いの場合**

❏ ［SMTP サーバ］を押して、SMTP サーバの IP アドレスまたは名称を入力したあと、[OK] を押します。

入力例： IP アドレス：192.168.1.1

名称：smtp.organization.company.com

❏ ［認証 / 暗号化設定］を押します。

❏ ［送信前の POP 認証］を［ON］にしたあと、[OK] を押します。

❏ ［次へ］を押します。

3

TCP/IP ネットワークで使用するには

❑ ［POP サーバ］を押して、POP サーバの IP アドレスまたは名称を入力したあと、[OK] を押します。

入力例： IP アドレス：192.168.1.1

名称：pop_server.organization.company.com

❑ ［POP アドレス］を押して、POP サーバにアクセスするときのログイン名を入力したあと、[OK] を押します。

入力例： account1

❑ ［POP パスワード］を押して、POP サーバにアクセスするときのパスワードを入力したあと、[OK] を押します。

❑ ［戻る］を押します。



● **SMTP サーバにログインしてからメールを送信する方式（SMTP Authentication）の SMTP サーバをお使いの場合**

❑ ［SMTP サーバ］を押して、SMTP サーバの IP アドレスまたは名称を入力したあと、[OK] を押します。

入力例： IP アドレス：192.168.1.1

名称：smtp.organization.company.com

❑ ［認証 / 暗号化設定］を押します。

❑ ［SMTP 認証］を［ON］にします。

❑ ［ユーザ名］を押して、SMTP サーバにログインするためのユーザ名を入力したあと、[OK] を押します。

ドメイン名を併記する必要のあるサーバをお使いの場合は、［ユーザ名］は「ユーザ名@ドメイン名」の形式で入力してください。

入力例： user@organization.company.com

❑ ［パスワード］を押して、SMTP サーバにログインするためのパスワードを入力したあと、[OK] を押します。

❑ ［OK］を押します。

電子メール /I ファクス画面に戻ります。

● **メール送信時に認証を必要としない SMTP サーバをお使いの場合**

❑ ［SMTP サーバ］を押して、SMTP サーバの IP アドレスまたは名称を入力したあと、[OK] を押します。

入力例： IP アドレス：192.168.1.1

名称：smtp.organization.company.com

❑ ［認証 / 暗号化設定］を押します。

❑ ［SMTP 認証］、［送信前の POP 認証］を両方とも［OFF］にしたあと、[OK] を押します。

電子メール /I ファクス画面に戻ります。

**7** **設定内容を確認したあと、[ 戻る ] を押します。**

**8** **初期設定 / 登録画面が閉じるまで、[閉じる] を繰り返し押します。**

**9** **本製品を再起動します。**

❑ 電源をいったん切り、10 秒以上たってから再度電源を入れます。

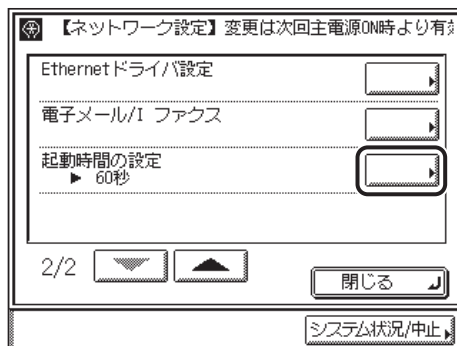
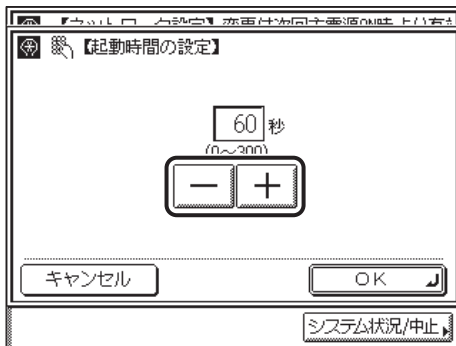
メモ　電源の入れかた／切りかたは、ユーザーズガイド「第 1 章　お使いになる前に」を参照してください。

これで電子メール /I ファクスの設定は完了しました。

## 起動時間の設定

本製品をスイッチングハブなどに接続している場合は、ネットワークの設定が正しくてもネットワークへの接続ができないことがあります。これは、スイッチングハブ間でのスパニングツリー処理により、本製品をスイッチングハブに接続した直後は本製品とスイッチングハブ間の通信ができないためです。
この場合は、本製品の通信開始を待機させる必要があります。

**1** **(初期設定 / 登録) → [システム管理設定] → [ネットワーク設定] を順に押します。**

**2** **[▼] [▲] を押して [起動時間の設定] を表示させ、[起動時間の設定] を押します。**

### 3 本製品のネットワーク部の起動時間を設定します。

［－］［＋］、または ⓪～⑨（テンキー）で時間を設定します。

### 4 設定内容を確認したあと、［OK］を押します。

ネットワーク設定画面に戻ります。

### 5 初期設定 / 登録画面が閉じるまで、［閉じる］を繰り返し押します。

### 6 本製品を再起動します。

❑ 電源をいったん切り、10 秒以上たってから再度電源を入れます。

メモ　電源の入れかた／切りかたは、ユーザーズガイド「第 1 章　お使いになる前に」を参照してください。

これで起動時間の設定は完了しました。

# 印刷またはファクス送信を行うコンピュータの設定

本製品のプロトコル設定が完了したら、各コンピュータの設定を行います。

### ■ TCP/IP ネットワークに接続する

印刷またはファクス送信を行う全コンピュータにTCP/IPクライアントソフトウェアをインストールして、TCP/IP ネットワークが使用できるようにします。詳しくは、OS の説明書を参照してください。

### ■ ドライバのインストールとポートの設定

印刷またはファクス送信を行うには、本製品に対応したドライバを各コンピュータにインストールして、ポートを設定する必要があります。ポートの設定方法は、印刷またはファクス送信に使用するプリントアプリケーションによって異なります。以下を参考にして使用するプリントアプリケーションを決めて、必要な作業を行ってください。

- LPD

  TCP/IP で一般的に使用されているプリントアプリケーションです。(➞ プリンタの接続方法（LPD/Raw）: P.3-48)

- Raw

  Windows 2000/XP/Server 2003/Vista で利用できるプリントアプリケーションです。LPD より高速に本製品にデータを送信できます。(➞ プリンタの接続方法（LPD/Raw）: P.3-48)

重要

- お使いのモデルによっては、コンピュータから印刷、ファクス送信を行うには、オプションを追加する必要があります。必要なオプションについては、「必要なオプションとシステム環境」(➞ P.1-2)を参照してください。
- ドライバをインストールするコンピュータの IPv4、または IPv6 アドレスが本製品の[IP アドレス範囲設定] で許可されていないときには、そのコンピュータから印刷またはファクス送信は行えません。(「TCP/IP の設定（IPv4）」(➞ P.3-4) の手順 9、または「TCP/IP の設定（IPv6）」(➞ P.3-24) の手順 7)

メモ

- Windows で Raw をお使いになる場合は、Canon LPR2 をインストールすることをおすすめします。Canon LPR2 を使用すると、簡単にポートを設定することができます。詳細については、「Canon LPR2 ユーザーズガイド」(PDF 取扱説明書) を参照してください。Canon LPR2 およびユーザーズガイドは、オプションの CARPS2 プリンタキットに同梱されているソフトウェアの CD-ROM に収録されています。
- ネットワーク上に Windows 2000/XP/Server 2003/Vista があるときは、これらをプリントサーバに設定することによって、ネットワークプリンタを効率よく管理できるようになります。プリントサーバを設定すると、プリントジョブはプリントサーバによって管理されます。
- あらかじめプリントサーバに代替ドライバをインストールしておくと、各コンピュータはドライバをネットワーク経由でインストールできるようになります。
  これらの設定は、ファクスドライバガイド「第 2 章 ファクスドライバをインストールするには」の共有プリンタ環境のときの手順を参照してください。

# プリンタの接続方法（LPD/Raw）

## Windows 98/Me をお使いの場合

### ■新規にドライバをインストールするとき

**1** **ドライバをインストールします。**

各ドライバの取扱説明書に記載されている手順に従って、ドライバをインストールします。

- プリンタドライバの場合
  CARPS2 ソフトウェアガイド「第 2 章　Windows から印刷するには」のネットワーク上のプリンタを自動探索する手順
- ファクスドライバの場合
  ファクスドライバガイド「第 2 章　ファクスドライバをインストールするには」のネットワーク上のファクスを自動探索する手順

重要　ドライバをインストールする途中でプリンタとの通信に失敗すると、エラーメッセージが表示されます。このときは、［いいえ］をクリックしたあと、バイトカウントモードを OFF に設定してください。

### ■ドライバをインストールしたあとでポートを変更するとき

**1** **Canon LPR2 をインストールして、ポートの変更を行います。**

Canon LPR2 のインストールおよびポート設定の手順については、「Canon LPR2 ユーザーズガイド」（PDF 取扱説明書）を参照してください。Canon LPR2 およびユーザーズガイドは、オプションの CARPS2 プリンタキットに同梱されているソフトウェアの CD-ROM に収録されています。

Canon LPR2 を使用する場合は、これでポートの変更は完了です。

重要　LPD を使用する場合は、Canon LPR2 の［ポートの追加］ダイアログボックスの［LPR キュー名］に、以下のいずれかを入力します。

・LP
　本製品のスプールの設定に従って印刷します。通常はこの設定にしてください。
・SPOOL
　本製品の設定にかかわらず、常にハードディスクにスプールしてから印刷します。
・DIRECT
　本製品の設定にかかわらず、常にハードディスクにスプールせずに印刷します。

これでドライバのインストールとポートの設定が完了しました。

## Windows 2000/XP/Server 2003/Vista をお使いの場合

メモ　Windows Vista をお使いの場合には、操作の途中で確認ダイアログが表示されることがあります。そのようなときには、ユーザ名とパスワードを入力してください。詳細は、OS の説明書などを参照してください。

### ■新規にドライバをインストールするとき

**1 ドライバをインストールします。**

各ドライバの取扱説明書に記載されている手順に従って、ドライバをインストールします。

- プリンタドライバの場合
  CARPS2 ソフトウェアガイド「第 2 章　Windows から印刷するには」のネットワーク上のプリンタを自動探索する手順
- ファクスドライバの場合
  ファクスドライバガイド「第 2 章　ファクスドライバをインストールするには」のネットワーク上のファクスを自動探索する手順

メモ　上記手順でドライバをインストールした場合、プリントアプリケーションは LPD、プリントキューは「LP」となります。本製品では、「LP」以外のプリントキューを指定することもできます。また、プリントアプリケーションとして Raw を使用することもできます。これらの種類や変更方法については、「ドライバをインストールしたあとでポートを変更するとき」（→ P.3-49）を参照してください。

### ■ドライバをインストールしたあとでポートを変更するとき

**1 Canon LPR2 をインストールして、ポートの変更を行います。Windows Vista をお使いの場合、または Canon LPR2 を使用しない場合は、手順 2 に進みます。**

Canon LPR2 のインストールおよびポート設定の手順については、「Canon LPR2 ユーザーズガイド」（PDF 取扱説明書）を参照してください。Canon LPR2 およびユーザーズガイドは、オプションの CARPS2 プリンタキットに同梱されているソフトウェアの CD-ROM に収録されています。

Canon LPR2 を使用する場合は、これでポートの変更は完了です。

重要　LPD を使用する場合は、Canon LPR2 の［ポートの追加］ダイアログボックスの［LPR キュー名］に、以下のいずれかを入力します。

・LP
　本製品のスプールの設定に従って印刷します。通常はこの設定にしてください。

・SPOOL
　本製品の設定にかかわらず、常にハードディスクにスプールしてから印刷します。

・DIRECT
　本製品の設定にかかわらず、常にハードディスクにスプールせずに印刷します。

Windows 2000/XP/Server 2003 では、Canon LPR2 をインストールしなくても、OS に標準の機能で LPD と Raw を設定できます。Canon LPR2 を使用しない場合は、手順 2 ～ 12 を参照してください。

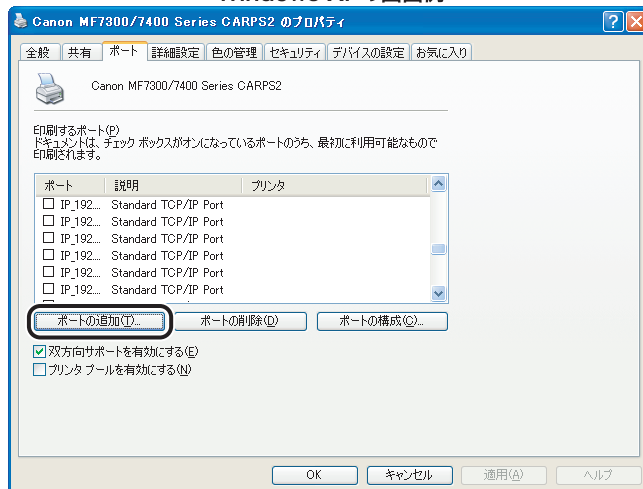
## 2 プリンタプロパティダイアログボックスを表示します。

- ❑ Windows 2000 の場合は、[スタート] メニューから [設定] － [プリンタ] を選択します。
- ❑ Windows XP Professional/Server 2003 の場合は、[スタート] メニューから [プリンタと FAX] を選択します。
- ❑ Windows XP Home Edition の場合は、[スタート] メニューから [コントロールパネル] － [プリンタとその他のハードウェア] － [プリンタと FAX] を選択します。
- ❑ Windows Vista の場合は、[スタート] メニューから [コントロールパネル] － [ハードウェアとサウンド] － [プリンタ] を選択します。

## 3 インストールしたプリンタのアイコンを右クリックして、[プロパティ] を選択します。

## 4 [ポート] タブをクリックして、[ポート] ページを表示します。

## 5 [ポートの追加] をクリックして、[プリンタポート] ダイアログボックスを表示します。

Windows XPの画面例

**6** **［利用可能なプリンタポートの種類］から［Standard TCP/IP Port］を選択したあと、［新しいポート］をクリックします。**

標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザードが起動します。

**7** **［次へ］をクリックします。**

**8** **［プリンタ名または IP アドレス］に、プリンタの IP アドレスまたは名前を入力したあと、［次へ］をクリックします。**

**9** **入力した IP アドレスのプリンタがあることが確認されて［標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザードの完了］ウィンドウが表示されたら、［完了］をクリックします。**

画面に「ポート情報がさらに必要です。」と表示されたときは、画面の指示に従って再検索を行うか、［デバイスの種類］で［標準］－［Canon Network Printing Device with P9100］を選択したあと、［次へ］をクリックします。

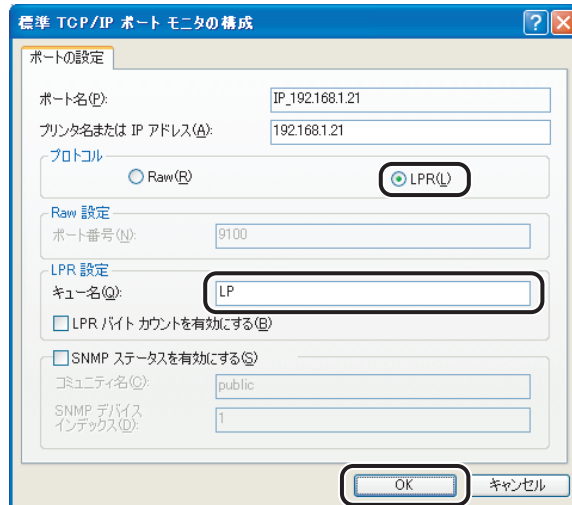
**10** **［閉じる］をクリックして、［プリンタポート］ダイアログボックスを閉じます。**

**11** **ポートを設定します。**

● **LPD を使用する場合**

❑ プリンタプロパティダイアログボックスで、［ポートの構成］をクリックします。

❏ ［プロトコル］で［LPR］を選択して、［LPR 設定］の［キュー名］にプリントキュー名を入力したあと、［OK］をクリックします。

Windows XPの画面例

［キュー名］で、プリントキューを指定することができます。プリントキューは以下の3 種類です。

- LP
  本製品のスプールの設定に従って印刷します。通常はこの設定にしてください。
- SPOOL
  本製品の設定にかかわらず、常にハードディスクにスプールしてから印刷します。
- DIRECT
  本製品の設定にかかわらず、常にハードディスクにスプールせずに印刷します。

### ● Raw を使用する場合

❏ プリンタプロパティダイアログボックスで、［ポートの構成］をクリックします。

❏ ［プロトコル］で［Raw］を選択したあと、［OK］をクリックします。

## 12 ［OK］をクリックします。

これでドライバのインストールとポートの設定が完了しました。

# ファイルサーバの設定

本製品からネットワーク上のコンピュータにデータを送信するには、送信先となるコンピュータ（ファイルサーバ）の設定が必要です。

TCP/IP ネットワークでは、次のいずれかにデータを送信することができます。

- FTP サーバ（Windows 2000/XP/Server 2003、Vista、UNIX、Linux、MacOS X、imageWARE Gateway シリーズ）
- Windows の共有フォルダ（Windows 98/Me/2000/XP/Server 2003）
- Samba の共有フォルダ（UNIX、Linux）

ここでは、FTP サーバの設定方法を説明しています。Windows の共有フォルダ、および Samba の共有フォルダの設定方法については、「第 4 章　NetBIOS ネットワークで使用するには」の「ファイルサーバの設定」(➞ P.4-9) を参照してください。

**重要**

- お使いのモデルによっては、データ送信機能を使用するには、オプションを追加する必要があります。必要なオプションについては、「必要なオプションとシステム環境」(➞ P.1-2) を参照してください。
- Samba は、2.2.8a 以降に対応しています。
- ここでは、本製品からのデータの送信先となるコンピュータの設定手順のみを説明しています。実際に本製品からネットワーク上のサーバにデータを送信するには、本製品操作パネルで宛先を設定する必要があります。宛先の設定方法は、送信／ファクスガイド「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。
- ここで説明する操作の手順は、FTP サーバの設定手順例です。お使いの環境によっては設定手順が異なることがあります。

# FTP サーバの設定方法

## Windows 2000/XP/Server 2003/Vista をお使いの場合

重要

- FTP サーバの設定はネットワーク管理者が行うことをおすすめします。
- Windows Server 2000 を FTP サーバとして使用するためには、Microsoft Internet Information Services 5.0（IIS 5.0）がインストールされている必要があります。お使いのコンピュータに IIS がインストールされていない場合は、設定を行う前に IIS をインストールしてください。インストール方法は OS の説明書などを参照してください。
- Windows XP Professional を FTP サーバとして使用するためには、Microsoft Internet Information Services 5.1（IIS 5.1）がインストールされている必要があります。お使いのコンピュータに IIS がインストールされていない場合は、設定を行う前に IIS をインストールしてください。インストール方法は OS の説明書などを参照してください。なお、Windows XP Home Edition を FTP サーバとして使用することはできません。
- Windows Server 2003 を FTP サーバとして使用するためには、Microsoft Internet Information Services 6.0（IIS 6.0）がインストールされている必要があります。お使いのコンピュータに IIS がインストールされていない場合は、設定を行う前に IIS をインストールしてください。インストール方法は OS の説明書などを参照してください。
- Windows Vista を FTP サーバとして使用するためには、Microsoft Internet Information Services 7.0（IIS 7.0）がインストールされている必要があります。お使いのコンピュータに IIS がインストールされていない場合は、設定を行う前に IIS をインストールしてください。インストール方法は OS の説明書などを参照してください。
- FTP サーバにアクセスするユーザのユーザ認証は、FTP サーバとなる Windows 2000 Server、WindowsXP Professional、WindowsServer 2003、Windows Vista のローカルのアカウントデータベースを参照して行います。したがって、FTP サーバとなる Windows 2000 Server、WindowsXP Professional、WindowsServer 2003、Windows Vista に登録したドメインユーザのアカウントで、他のドメインの FTP サーバに本製品から直接データを送信することはできません。
- ここでは、[規定の FTP サイト］のデフォルトのホームディレクトリを使用する場合の手順を説明しています。それ以外の設定を行う場合は、IIS の説明書を参照して FTP サイトとホームディレクトリを設定してください。
- IPv6 には対応していません。
- FTP サーバに送信するには、ネットワークインターフェースボード（Satera MF7450N/MF7350N は標準装備）、シンプル SEND 拡張キットが必要です。

メモ

Windows Vista をお使いの場合には、操作の途中で確認ダイアログが表示されることがあります。そのようなときには、ユーザ名とパスワードを入力してください。詳細は、OS の説明書などを参照してください。

**1** **FTP サイトとして定義するディレクトリに適切なアクセス権を持つグループのメンバとしてログオンします。**

メモ

ドライブやディレクトリのアクセス権の設定は環境によって異なります。詳細は、Windows の説明書を参照してください。

## 2 IIS を起動します。

❑ Windows 2000 の場合は、［スタート］メニューから［プログラム］－［管理ツール］－［インターネットサービスマネージャ］を選択します。

❑ Windows XP の場合は、［スタート］メニューから［コントロールパネル］－［パフォーマンスとメンテナンス］－［管理ツール］－［インターネットインフォメーションサービス］を選択します。

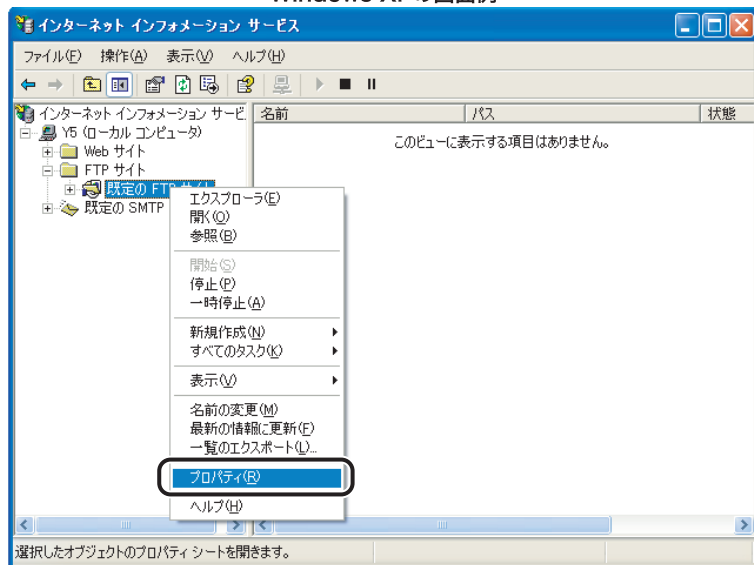
❑ Windows Server 2003 の場合は、［スタート］メニューから［管理ツール］－［インターネットインフォメーションサービス（IIS）マネージャ］を選択します。

❑ Windows vistaの場合は、[スタート]メニューから[コンピュータ]を右クリック－[管理]－[サービスとアプリケーション]をダブルクリック－[インターネットインフォメーションサービス(IIS)6.0 マネージャ]をダブルクリックします。

メモ　Windows Vista で［ユーザーアカウント制御］ダイアログボックスが表示された場合は、［続行］をクリックしてください。

## 3 FTP サイトを設定します。

❑ Windows 2000/XP/Server 2003 の場合は、[規定の FTP サイト]アイコンを右クリックして、ポップアップメニューから［プロパティ］を選択します。

**Windows XPの画面例**

Windows Server 2003 では、［既定の FTP サイト］アイコンは［FTP サイト］フォルダの下にあります。

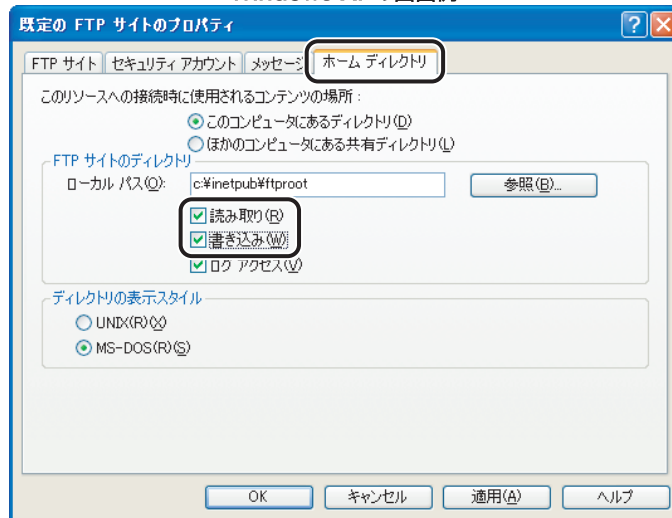
❑ Windows Vista の場合は、[FTP サイト ] フォルダをダブルクリックして、[Default FTP Site] を右クリックします。

❑ [規定の FTP サイトのプロパティ]ダイアログボックス Windows Vista の場合は [Default FTP Site のプロパティ ] ダイアログボックスで、[セキュリティアカウント] タブをクリックして、[セキュリティアカウント] ページを表示します。

❑ Windows 2000 の場合は、[匿名でのみ接続を許可する] のチェックマークを外します。

❑ Windows XP/Server 2003/Vista の場合は、[匿名接続のみを許可する] のチェックマークを外します。

❑ [ホームディレクトリ] タブをクリックして、[ホームディレクトリ] ページを表示します。[読み取り] と [書き込み] の両方にチェックマークを付けます。

Windows XPの画面例

❑ [OK] をクリックして、[規定の FTP サイトのプロパティ] ダイアログボックス Windows Vista の場合は [Default FTP Site のプロパティ ] ダイアログボックスを閉じます。

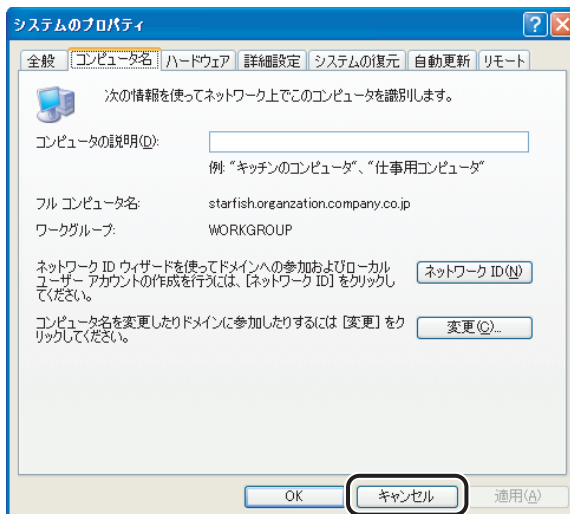
## 4 [フルコンピュータ名] を確認します。

### ● Windows 2000 の場合

❑ 画面上の [マイコンピュータ] アイコンを右クリックして、[プロパティ] を選択します。

❑ [ネットワーク ID] タブをクリックして、[ネットワーク ID] ページを表示します。[フルコンピュータ名] を確認します。

❑ ［キャンセル］をクリックして、［システムのプロパティ］ダイアログボックスを閉じます。

Windows XPの画面例

● **Windows XP/Server 2003 の場合**

❑ ［スタート］メニューの［マイコンピュータ］を右クリックして、［プロパティ］を選択します。

❑ ［コンピュータ名］タブをクリックして、［コンピュータ名］ページを表示します。［フルコンピュータ名］を確認します。

❑ ［キャンセル］をクリックして、［システムのプロパティ］ダイアログボックスを閉じます。

● **Windows Vista の場合**

❑ Windows Vista の場合は、[ スタート ] メニューから [ コンピュータ ] を右クリックします。[ フルコンピュータ名 ] を確認します。

❑ [ コンピュータの基本的な情報の表示 ] ウィンドウを閉じます。

## 5 FTP サーバにアクセスするユーザとパスワードを設定します。

❑ Windows 2000 の場合は、［マイコンピュータ］を右クリックして、［管理］を選択します。

❑ Windows XP/Server 2003 の場合は、［スタート］メニューの［マイコンピュータ］を右クリックして、［管理］を選択します。

❑ Windows vistaの場合は、[スタート]メニューから[コンピュータ]を右クリックー [ 管理 ] を選択します。

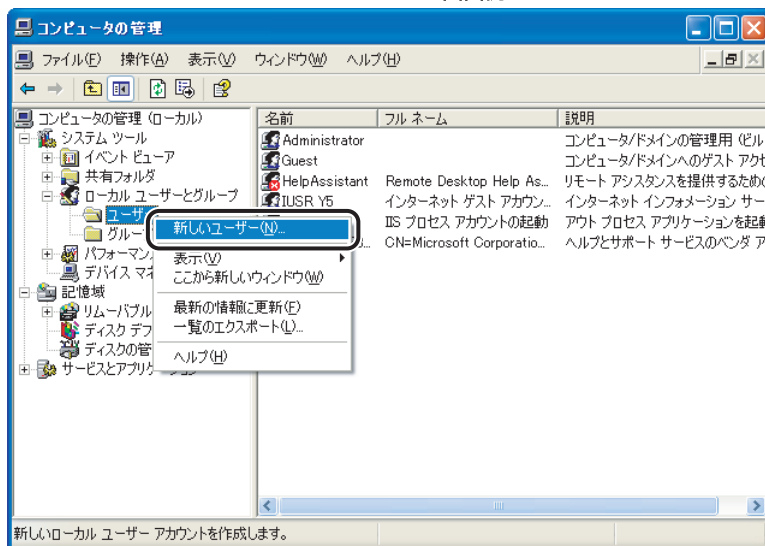
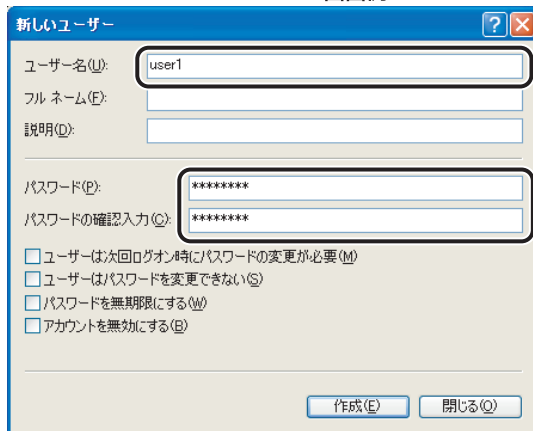
［コンピュータの管理］ウィンドウが表示されます。

❑ ［システムツール］の中の［ローカルユーザーとグループ］をダブルクリックして、その中の［ユーザー］フォルダを右クリックします。ポップアップメニューから［新しいユーザー］を選択します。

Windows XPの画面例

❑ ［新しいユーザー］ダイアログボックスで、［ユーザー名］、［パスワード］、［パスワードの確認入力］を入力します。

Windows XPの画面例

新しいユーザー
ユーザー名(U): user1
フル ネーム(F):
説明(D):
パスワード(P): ********
パスワードの確認入力(C): ********
ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要(M)
ユーザーはパスワードを変更できない(S)
パスワードを無期限にする(W)
アカウントを無効にする(B)
作成(E)　閉じる(O)

ユーザー名とパスワードは、半角 24 文字以内で設定します。

［ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要］にチェックマークを付けて新規ユーザを追加した場合は、新規ユーザはいったんパスワードを変更してからでないと、本製品からファイルを送信することはできません。（本製品でパスワードを変更することはできません。）

❑ 内容を確認したあと、［作成］をクリックします。

［閉じる］をクリックして、［新しいユーザー］ダイアログボックスを閉じます。

❑ ［コンピュータの管理］ウィンドウを閉じます。

メモ　Windows Vista で［ユーザーアカウント制御］ダイアログボックスが表示された場合は、［続行］をクリックしてください。

## 6 本製品の操作パネルで宛先を設定します。

宛先の設定例：

- サーバ側の設定
  ［フルコンピュータ名］：starfish.organization.company.com
  規定の FTP サイトのホームディレクトリ ¥Inetpub¥ftproot に share というディレクトリを作り、share をデータの送信先にする。
- 本製品の宛先の設定

［プロトコル］：　FTP
［ホスト名］：　starfish.organization.company.com
［フォルダへのパス］：　share
［ユーザ名］：　（手順 5 で設定したユーザ名）
［パスワード］：　（上記ユーザのパスワード）

重要
- 本製品の宛先の［ホスト名］の設定で、上記の設定例のように手順 4 で確認したフルコンピュータ名を使用する場合には、DNS サーバが必要です。（本製品と FTP サーバが同じサブネット内にある場合でも必要です。）DNS サーバがない場合は、［ホスト名］の設定には、FTP サーバの IP アドレスを使用してください。
- 操作パネルの［ホスト名］、［フォルダへのパス］に入力できるのは、半角 120 文字以内です。それぞれ 120 文字以内になるようにサーバ側を設定してください。
- タッチパネルの表示言語を切り替えると、［ホスト名］や［フォルダへのパス］が正しく表示されないことがあります。

メモ　宛先の設定方法は、送信／ファクスガイド「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

これで FTP サーバへ送信するための設定が完了しました。

## UNIX/Linux をお使いの場合

重要
- UNIXのコンピュータをFTPサーバとして使用するためには、Solaris 2.6以降のOSがインストールされている必要があります。Linux のコンピュータを FTP サーバとして使用するためには、Red Hat Linux 7.2 以降がインストールされている必要があります。
- お使いの環境によっては、FTP を使用するための詳細な設定が必要な場合があります。詳しくは、お使いの環境のネットワーク管理者にご相談ください。

**1** **ワークステーションにスーパーユーザとしてログインします。**

**2** **本製品からファイルを送信するユーザとパスワードを設定します。**

ユーザ名とパスワードは、半角 24 文字以内で設定します。

**3** **送信先として使用する共有ディレクトリを作成したあと、ファイルを送信するユーザの読み取り、書き込みを許可します。**

**4** **本製品の操作パネルで宛先を設定します。**

宛先の設定例：

- サーバ側の設定（上記手順で設定した内容）

[ホスト名]：　starfish
[ドメイン]　organization.company.com
ユーザのホームディレクトリが /home/hsato で、/home/hsato/share をデータの送信先にする。

- 本製品の宛先の設定

[プロトコル]：　FTP
[ホスト名]：　starfish.organization.company.com
[ユーザ名]：　（手順 2 で設定したユーザ名）
[パスワード]：　（上記ユーザのパスワード）
[フォルダへのパス］には以下のいずれかを入力してください。
share（相対パスを入力する場合）
/home/hsato/share（絶対パスを入力する場合）

重要

- 本製品の宛先の［ホスト名］の設定で、上記の設定例のようにホスト名を使用する場合には、DNS サーバが必要です。（本製品と FTP サーバが同じサブネット内にある場合でも必要です。）DNS サーバがない場合は、［ホスト名］の設定には、FTP サーバの IP アドレスを使用してください。
- 操作パネルの［ホスト名]、[フォルダへのパス］に入力できるのは、半角 128 文字（全角 64 文字）以内です。それぞれ 128 文字以内になるようにサーバ側を設定してください。
- タッチパネルの表示言語を切り替えると、[ホスト名］や［フォルダへのパス］が正しく表示されないことがあります。
- FTP のポート番号を 21 以外に設定しているときは、[ホスト名］は次の形式で設定してください。
  <FTP サーバの IP アドレス >:< ポート番号 >
  例：192.168.1.21:21000

メモ

宛先の設定方法は、送信／ファクスガイド「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

これで FTP サーバへ送信するための設定が完了しました。

## Mac OS X をお使いの場合

**1** **Mac OS X に管理者としてログインします。**

**2** **Mac OS X の FTP サービスを開始します。**

❑ ［Dock］から［System Preferences］をクリックします。

❑ ［システム環境設定］ウィンドウで［共有］をクリックします。

❑ ［FTP サービスを開始する］にチェックマークを付けます。

❑ ツールバーの［すべてを表示］をクリックします。

**3** **データを送信するユーザとパスワードを設定します。**

❑ ［システム環境設定］ウィンドウで［ユーザ］をクリックします。

❑ ［ユーザ］ウィンドウで、本製品から Mac OS X にデータを送信するユーザとパスワードを設定します。

ユーザ名とパスワードは、半角 24 文字以内で設定します。

❑ ［ユーザ］ウィンドウを閉じます。

**4** **送信先として使用する共有フォルダを作成します。**

設定例：

［Home］フォルダの中の［Public］フォルダの中に、「Satera_Folder」というフォルダを作成します。

**5** **手順 4 で作成した共有フォルダのアクセス権を設定します。**

❑ 共有フォルダを選択した状態で、［ファイル］メニューの［情報を見る］をクリックします。

❑ ［表示］で、［アクセス権］を選択します。

❑ オーナー、グループのメンバーの読み取り／書き込みを許可します。

❑ ［情報］ウィンドウを閉じます。

## 6 本製品の操作パネルで宛先を設定します。

宛先の設定例：

- サーバ側の設定（上記手順で設定した内容）
  ユーザ名「Canon」の［Home］フォルダ中の［Public］フォルダの中に「Satera_Folder」というフォルダを作り、「Satera_Folder」をファイルの送信先にする。
- 本製品の宛先の設定

［プロトコル］：　FTP
［ホスト名］：　Macintosh の IP アドレス
［ユーザ名］：　（手順 3 で設定したユーザ名）
［パスワード］：　（上記ユーザのパスワード）
［フォルダへのパス］には以下のいずれかを入力してください。
Public/Satera_Folder（相対パスを入力する場合）
/Users/Canon/Public/Satera_Folder（絶対パスを入力する場合）

重要

- 操作パネルの［フォルダへのパス］に入力できるのは、半角 120 文字以内です。120 文字以内になるように送信先を設定してください。
- タッチパネルの表示言語を切り替えると、［ホスト名］や［フォルダへのパス］が正しく表示されないことがあります。
- FTP のポート番号を 21 以外に設定して IPv4 ホストに送信するときは、［ホスト名］は次の形式で設定してください。
  <FTP サーバの IPv4 アドレス >:< ポート番号 >
  例：192.168.1.21:21000

メモ

宛先の設定方法は、送信／ファクスガイド「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

これで FTP サーバへ送信するための設定が完了しました。

## imageWARE Gateway シリーズをお使いの場合

- imageWARE Gateway シリーズの FTP サーバへデータを送信する場合は、imageWARE Gateway シリーズ用の FTP サーバが必要です。
- imageWARE Document Manager へデータを送信する場合は、[拡張 FTP の ON/OFF]を「ON」に設定しておく必要があります。設定方法については、「プロトコルの設定」(➞ P.3-3)を参照してください。

---

### 1 imageWARE Gateway シリーズの FTP サーバを設定します。

imageWARE Gateway シリーズのユーザーズガイドを参照して設定します。

### 2 imageWARE Gateway シリーズで、本製品から送信するデータを格納するフォルダを設定します。

imageWARE Gateway シリーズのユーザーズガイドを参照して設定します。

メモ

- フォルダ名が、半角 120 文字以内になるように設定してください。
- ユーザ名とパスワードは、半角 24 文字以内になるように設定してください。

### 3 imageWARE Gateway シリーズで、宛先データをエクスポートします。

imageWARE Gateway シリーズのユーザーズガイドを参照して設定します。

重要

- FTP サーバのアドレスに FQDN（starfish.organization.company.com のような形式）を使用する場合には、DNS サーバが必要です。（本製品と FTP サーバが同じサブネット内にある場合でも必要です。）DNS サーバがない場合は、IP アドレスを使用してください。
- FTPサーバのアドレスにFQDNを使用する場合は、半角120文字以内になるように設定してください。
- FTP のポート番号を 21 以外に設定して IPv4 ホストに送信するときは、[ホスト名]は次の形式で設定してください。
  <FTP サーバの IPv4 アドレス >:< ポート番号 >
  例：192.168.1.21:21000

### 4 本製品の Web ブラウザ（リモート UI）を使用して、手順 3 でエクスポートした宛先データを本製品にインポートします。

- ❑ Web ブラウザ（リモート UI）で、[初期設定 / 登録] ➞ [インポート / エクスポート] をクリックします。
- ❑ 右側の画面で [インポート] をクリックします。
- ❑ [宛先表] で、インポート先の宛先表を選択します。
- ❑ [インポート方法] で、インポート先の宛先表に追加するか上書きするかを選択します。
- ❑ [フォルダへのパス] で、手順 3 でエクスポートした宛先データの保存先へのパスを入力します。
- ❑ [フォーマット] で、[専用フォーマット] を選択します。
- ❑ [インポート実行] をクリックします。

**重要** タッチパネルの表示言語を切り替えると、[ホスト名] や [フォルダへのパス] が正しく表示されないことがあります。

**メモ** 宛先の設定方法は、送信／ファクスガイド「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

---

これで imageWARE Gateway シリーズの FTP サーバへ送信するための設定が完了しました。

---

# デバイスの管理

以下のソフトウェアを使用して、お使いのコンピュータ上から本製品の状態を調べることや本製品の設定を行うことができます。

- Web ブラウザ（リモート UI）
- NetSpot Device Installer（キヤノン製のユーティリティソフトウェア）



## リモート UI を使用して管理する

本製品に内蔵されているリモート UI というソフトウェアを使用して、Web ブラウザ上で本製品を管理することができます。
リモート UI の使用方法については、「リモート UI ガイド」を参照してください。

## NetSpot Device Installer を使用して管理する

NetSpot Device Installer を使うと、ネットワーク上にあるさまざまなデバイスの基本的プロトコルの設定や状態表示を行えます。NetSpot Device Installer については、「ユーティリティソフトウェアを使用するには」（➞ P.6-9）を参照してください。

# NetBIOS ネットワークで使用するには

本製品を NetBIOS ネットワークに接続して使用するための設定方法について説明しています。

# NetBIOS ネットワークで使用するために必要な作業

NetBIOS ネットワークで使用するために必要な作業は、次のとおりです。

## 1 プロトコルの設定（→ P.4-3）

プロトコルの設定を行います。以下のいずれかを使用して設定できます。

- 本製品の操作パネル
- Web ブラウザ（リモート UI）

## 2 ファイルサーバの設定（→ P.4-9）

本製品からのファイルの送信先となるコンピュータの設定を行います。（お使いのモデルによってはデータ送信機能を使用するには、オプションを追加する必要があります。必要なオプションについては、「必要なオプションとシステム環境」（→ P.1-2）を参照してください。

重要

- 手順 1 、2 の作業は、ネットワーク管理者が行うことをおすすめします。
- 本製品では、NetBIOSネットワークで対応しているベースプロトコルはTCP/IPv4のみで、TCP/IPv6、NetBEUI には対応していません。
- 本製品は NetBIOS ネットワークから印刷またはファクス送信できません。
  コンピュータから印刷またはファクス送信を行う場合は、TCP/IP ネットワークで行います。TCP/IP ネットワークから印刷またはファクス送信を行う場合の設定は、「第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用するには」の「印刷またはファクス送信を行うコンピュータの設定」（→ P.3-47）を参照してください。
- 最初に TCP/IP の設定を行うときは、本製品の操作パネルまたは NetSpot DeviceInstaller を使用してください。これらの設定後は、Web ブラウザ（リモート UI）で設定内容を変更することができます。

# プロトコルの設定

ここでは、本製品の操作パネルを使用してプロトコルを設定する方法について説明しています。最初に設定を行うときは、本製品の操作パネルを使用してください。
最初の設定後に設定内容を変更する場合は、本製品の操作パネル以外を使用することもできます。詳細は、「ネットワーク設定項目一覧」（➞ P.6-2）を参照してください。

重要

- 操作パネルで設定した内容は、本製品を再起動したとき（主電源を入れたとき）に有効になります。
- 最初にTCP/IP の設定を行うときは、本製品の操作パネルまたはNetSpot Device Installer を使用してください。これらの設定後は、Web ブラウザ（リモート UI）で設定内容を変更することができます。
- NetSpot Device Installer で設定することができるのは、本製品の項目の一部です。設定できる項目については、「ネットワーク設定項目一覧」（➞ P.6-2）を参照してください。

メモ

- タッチパネルの文字の入力方法の詳細は、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。
- Web ブラウザ（リモート UI）の使用方法は、リモート UI ガイド「第 2 章　いろいろな機能の確認／管理」を参照してください。
- NetSpot Device Installer については、「ユーティリティソフトウェアを使用するには」（➞ P.6-9）を参照してください。

## TCP/IP の設定（IPv4）

### 1 TCP/IPv4 の設定を行います。

TCP/IPv4 の設定を行っていない場合は、「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用するには」の「TCP/IP の設定（IPv4）」（➞ P.3-4）を参照して設定を行います。

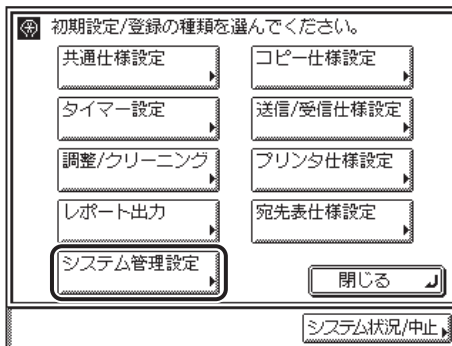
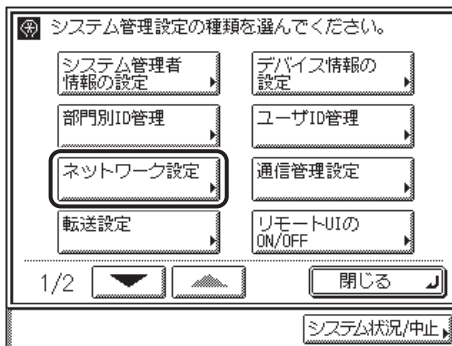
続いて SMB と WINS の設定を行います。

## SMB と WINS の設定

本製品をNetBIOS ネットワーク上で使用するには、本製品のSMB の設定が必要です。WINS による名前解決を使用する場合は、続いて WINS の設定を行います。

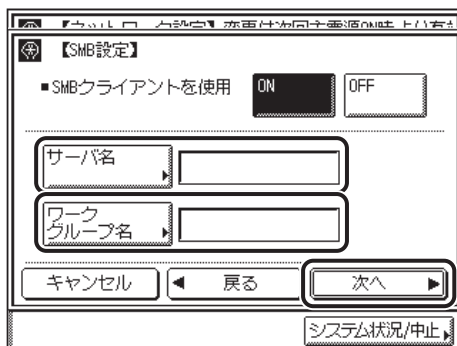
メモ　WINS (Windows Internet Name Service) は、NetBIOS 名（NetBIOS ネットワークでのコンピュータ名やプリンタ名）と、IP アドレスを対応させるサービスです。WINS を使用するには、WINS サーバが必要です。

**1** (初期設定 / 登録）を押します。

**2** ［システム管理設定］を押します。

メモ　タッチパネルに「システム管理部門 ID と暗証番号をテンキーで入力してください。」と表示された場合は、システム管理部門 ID とシステム管理暗証番号を入力してください。システム管理部門 ID とシステム管理暗証番号の入力については、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。

**3** ［ネットワーク設定］を押します。

## 4 ［SMB 設定］を押します。

## 5 ［SMB クライアントを使用］を［ON］にします。

## 6 ［サーバ名］と［ワークグループ名］を入力し、［次へ］を押します。

全角文字を使用することもできます。

［サーバ名］：
［サーバ名］を押して、本製品のコンピュータ名を入力したあと、[OK] を押します。ネットワーク上の他のコンピュータやプリンタなどで使用している名前と重複しない名前を入力してください。

［ワークグループ名］：
［ワークグループ名］を押して、本製品が属するワークグループ名を入力したあと、[OK] を押します。お使いの環境にワークグループがない場合は、Windows 上でワークグループを作成して、そのワークグループ名を入力してください。未入力も可能です。

重要
- ［ワークグループ名］にドメイン名を指定することはできません。
- ［サーバ名］と［ワークグループ名］にスペースを含めることはできません。

## 7 [次へ]を押して、[コメント]を押します。

## 8 必要に応じて、プリンタに関するコメントを入力したあと、[OK]を押します。

プリンタの情報を見るときに、ここに指定したコメントが表示されます。全角文字を使用することもできます。

## 9 LMアナウンスを設定します。

● **本製品の存在をLAN Managerに通知する場合**

❑［LMアナウンスを使用］を［ON］にします。

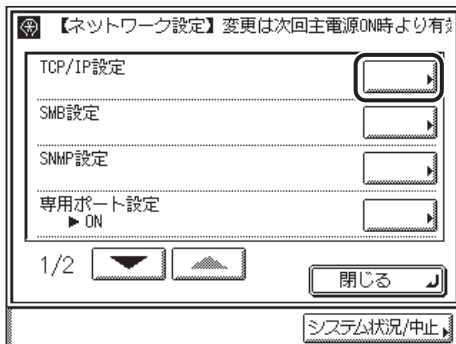
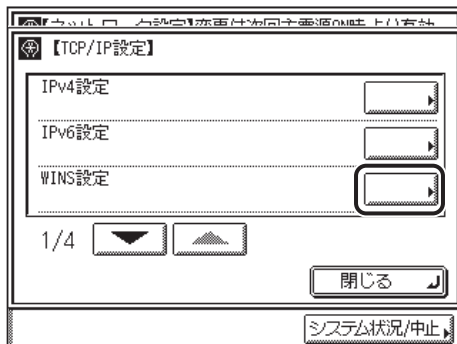
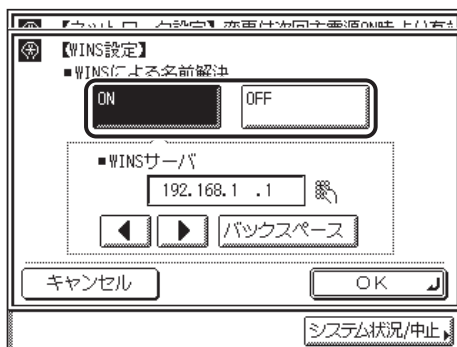
● **本製品の存在をLAN Managerに通知しない場合**

❑［LMアナウンスを使用］を［OFF］にします。

メモ
- LMアナウンスを使用すると、LAN Managerから本製品を参照できるようになります。
- LAN Managerから本製品を参照する必要がない場合は、[OFF]を選択するとネットワークのトラフィックを抑えることができます。

## 10 設定内容を確認したあと、［OK］を押します。

ネットワーク設定画面に戻ります。

## 11 WINSの設定を行う場合は、［TCP/IP設定］を押します。WINSの設定を行わない場合は、手順16に進みます。

## 12 TCP/IP 設定画面で、［WINS 設定］を押します。

## 13 WINS による名前解決を使用する場合は、［ON］を押します。使用しない場合は、［OFF］を押します。

［OFF］を選択した場合は、手順 15 に進みます。

## 14 ［WINS サーバ］に、WINS サーバの IPv4 アドレスを入力します。

IPv4 アドレスの決定方法が DHCP の場合、DHCP サーバから WINS サーバの IPv4 アドレスを取得できるときにはいつでも、DHCP サーバから取得した IPv4 アドレスが上書きされます。

## 15 設定内容を確認したあと、［OK］を押します。

TCP/IP 設定画面に戻ります。

## 16 初期設定 / 登録画面が閉じるまで、［閉じる］を繰り返し押します。

## 17 本製品を再起動します。

❑ 電源をいったん切り、10 秒以上たってから再度電源を入れます。

メモ　電源の入れかた／切りかたは、ユーザーズガイド「第 1 章　お使いになる前に」を参照してください。

これでプロトコルの設定は完了しました。

# ファイルサーバの設定

本製品からネットワーク上のコンピュータにファイルを送信するには、送信先となるコンピュータ（ファイルサーバ）の設定が必要です。NetBIOS ネットワークでは、Windows および UNIX + Samba の共有フォルダへファイルを送信します。ここでは、共有フォルダの設定手順について説明しています。

重要
- Samba は、2.2.8a 以降に対応しています。
- お使いのモデルによっては、データ送信機能を使用するには、オプションを追加する必要があります。必要なオプションについては、「必要なオプションとシステム環境」(→ P.1-2) を参照してください。
- ここでは、本製品からのデータの送信先となるコンピュータの設定手順のみを説明しています。実際に本製品からネットワーク上のサーバにデータを送信するには、本製品操作パネルで宛先を設定する必要があります。宛先の設定方法は、送信／ファクスガイド「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。
- ここで説明する操作の手順は、共有フォルダの設定手順例です。お使いの環境によっては設定手順が異なることがあります。

メモ

TCP/IP ネットワークでは、FTP サーバを本製品からのデータの送信先とすることもできます。FTP サーバの設定方法については、「ファイルサーバの設定」（→ P.3-53）を参照してください。

## TCP/IP ネットワークの接続

本製品からのファイルの送信先となるコンピュータに TCP/IP クライアントソフトウェアをインストールして、TCP/IP ネットワークを使用できるようにします。詳しくは、OS の説明書を参照してください。

## NetBIOS ネットワークと共有フォルダの設定

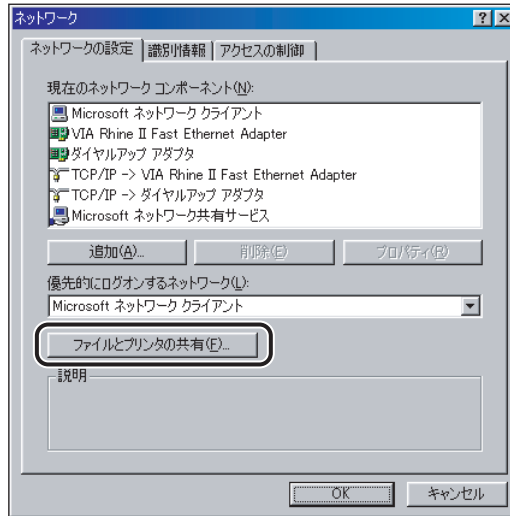
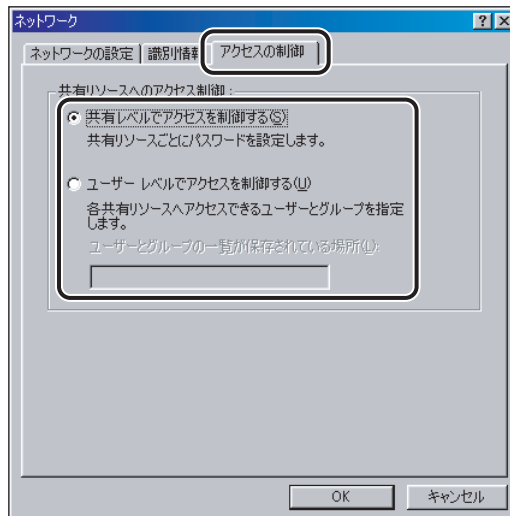
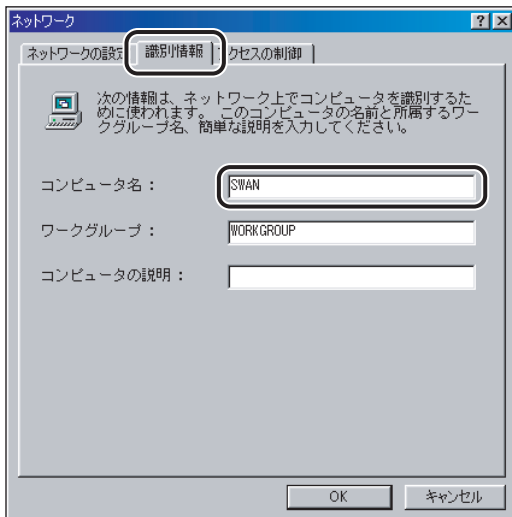
### Windows 98/Me をお使いの場合

メモ
- ネットワーク上に Windows 2000/XP/Server2003/Vista がある場合は、これらをファイルサーバにすることをおすすめします。
- 手順中の画面や項目名は、Windows98 のものです。OS の種類によっては、項目名が異なることがあります。

**1 NetBIOS の設定を行います。**

❑ 画面上の［ネットワークコンピュータ］アイコンを右クリックして、［プロパティ］を選択します。

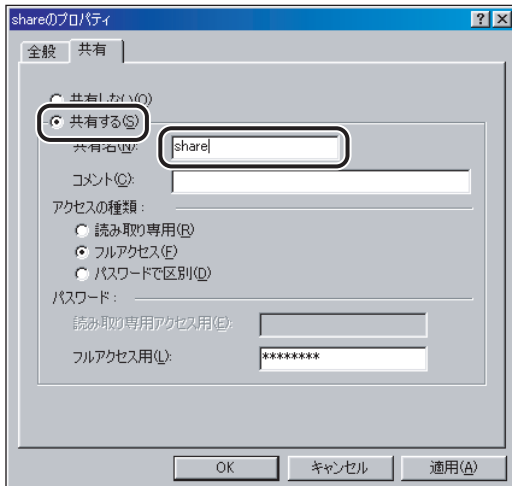
❏ ［現在のネットワークコンポーネント］一覧に、［Microsoft ネットワーククライアント］と［Microsoft ネットワーク共有サービス］があることを確認します。ない場合は、［追加］をクリックしてインストールします。

❏ ［ファイルとプリンタの共有］をクリックして、［ファイルを共有できるようにする］を選択したあと、［OK］をクリックします。

❏ ［ネットワーク］ダイアログボックスの［アクセスの制御］タブをクリックして、［アクセスの制御］ページを表示します。アクセス制御のレベルを選択します。
［ユーザーレベルでアクセスを制御する］を選択する場合は、ユーザーとグループの一覧が保存されている場所を入力します。

❑ ［ネットワーク］ダイアログボックスの［識別情報］タブをクリックして、［識別情報］ページを表示します。［コンピュータ名］を確認します。

❑ ［OK］を押して、［ネットワーク］ダイアログボックスを閉じます。

## 2 共有フォルダを設定します。

### ● ［共有レベルでアクセスを制御する］を選択した場合

❑ エクスプローラなどで、共有するフォルダを選択したあと、右クリックして［共有］を選択します。

❑ ［共有ページ］で、［共有する］を選択して、［共有名］を入力します。

❑ ［アクセスの種類］で、［フルアクセス］か［パスワードで区別］のどちらかを選択します。

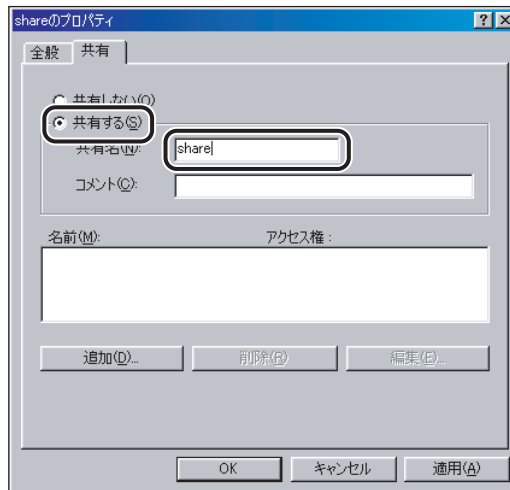
❑ パスワードを入力します。

［パスワードで区別］を選択した場合は、フルアクセス用のパスワードを入力します。パスワードは、半角 14 文字以内で設定します。

❑ 設定内容を確認したあと、［OK］をクリックします。

● **［ユーザーレベルでアクセスを制御する］を選択した場合**

❑ エクスプローラなどで、共有するフォルダを選択したあと、右クリックして［共有］を選択します。

❑ ［共有ページ］で、［共有する］を選択して、［共有名］を入力します。

❑ ［追加］をクリックします。

［ユーザーの追加］ダイアログボックスが表示されます。

❑ 左側のリストから共有するフォルダにアクセスするユーザを選択して、右側のリストに追加します。

❑ 設定内容を確認したあと、［OK］をクリックします。

❑ ［OK］をクリックして、共有するフォルダのプロパティダイアログボックスを閉じます。

## 3 本製品の操作パネルで宛先を設定します。

宛先の設定は、［参照］を押してリストから選択する方法と、各項目を文字入力する方法があります。

宛先の設定例：

- サーバ側の設定（上記手順で設定、確認した内容）

［コンピュータ名］：　swan
［共有名］：　share
share の中に Images というフォルダを作り、Images をファイルの送信先にする。

- 本製品の宛先の設定

［プロトコル］：　Windows (SMB)
［ホスト名］：　¥¥swan¥share（共有フォルダのパスで ¥¥ は省略可能）
［フォルダへのパス］：¥Images
［ユーザ名］：　（手順 1 で［共有レベルでアクセスを制御する］を選択した場合は、入力不要です。）
［パスワード］：　（手順 2 で設定したパスワード）

重要

- 各項目の値を参照画面でリストから選択する場合は、「起動時間の設定」（➞ P.3-45）で設定した時間が経過してから［参照］を押してください。（工場出荷時の起動時間の設定値は「60」秒です。）
- 操作パネルの［ホスト名］に入力できるのは、半角 120 文字（全角 60 文字）以内です。また、［フォルダへのパス］には半角 120 文字（全角 60 文字）以内、それぞれ制限文字数以内になるように、サーバ側を設定してください。
- タッチパネルの表示言語を切り替えると、［ホスト名］や［フォルダへのパス］が正しく表示されなかったり、参照できないことがあります
- マスタブラウザだけでなく、接続先コンピュータと本製品の操作パネルの表示言語が一致しない場合、［ホスト名］や［フォルダへのパス］が正しく表示されなかったり、参照できないことがあります。

メモ

- 宛先の［ホスト名］は、次の形式で指定することもできます。後者の場合は DNS サーバが必要です。
  ¥¥192.168.2.100¥share
  ¥¥host_name.organization.company.co.jp¥share
- 宛先の設定方法は、送信／ファクスガイド「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

これで共有フォルダへ送信するための設定が完了しました。

## Windows 2000/XP/Server 2003/Vista をお使いの場合

重要　ファイルサーバの設定は、ネットワーク管理者が行うことをおすすめします。

メモ　Windows 2000/XP/Server 2003/Vista には、アクセスできるユーザ数またはクライアント数に制限があります。このユーザ数またはクライアント数を超えた場合、Windows2000/XP/Server 2003/Vista にデータを送信することはできません。
Windows Vista をお使いの場合には、操作の途中で確認ダイアログが表示されることがあります。そのようなときには、ユーザ名とパスワードを入力してください。詳細は、OS の説明書などを参照してください。

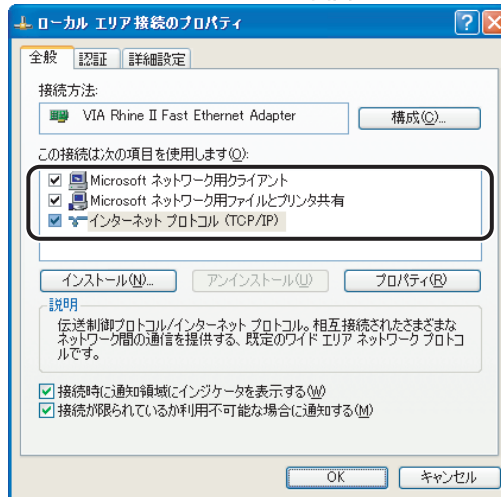
### 1 管理者の権限で Windows にログオンします。

### 2 NetBIOS の設定を行います。

- ❑ Windows 2000 の場合は、画面上の［マイネットワーク］アイコンを右クリックー［プロパティ］ー［ローカルエリア接続］アイコンを右クリックー［プロパティ］を選択します。
- ❑ Windows XP の場合は、［スタート］メニューー［マイネットワーク］を右クリックー［プロパティ］ー［ローカルエリア接続］アイコンを右クリックー［プロパティ］を選択します。
- ❑ Windows Server 2003 の場合は、［スタート］メニューー［コントロールパネル］ー［ネットワーク接続］ー［ローカルエリア接続］アイコンを右クリックー［プロパティ］を選択します。
- ❑ Windows Vista の場合は、［スタート］メニューー［ネットワーク］を右クリックして、［プロパティ］ー［ネットワーク接続の管理］ー［ローカルエリア接続］アイコンを右クリックー［プロパティ］を選択します。

［ローカルエリア接続のプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

❑ ［Microsoft ネットワーク用クライアント］［Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有］、［インターネットプロトコル（TCP/IP）］（Windows Vista は［インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4)］のすべてにチェックマークが付いていることを確認します。チェックマークが外れている場合は、チェックマークを付けます。

Windows XPの画面例

❑ ［インターネットプロトコル（TCP/IP)］（Windows Vista は［インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4)］）をダブルクリックして、［インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ］（Windows Vista は［インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4）のプロパティ］）ダイアログボックスを表示します。［全般］ページの［詳細設定］をクリックします。

❑ ［WINS］タブをクリックして、［WINS］ページを表示します。［NetBIOS over TCP/IP を有効にする］を選択します。

❑ ［OK］を繰り返しクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

❑ 必要に応じてコンピュータを再起動します。

メモ　Windows Vista で［ユーザーアカウント制御］ダイアログボックスが表示された場合は、［続行］をクリックしてください。

## 3 コンピュータ名を確認します。

### ● Windows 2000 の場合

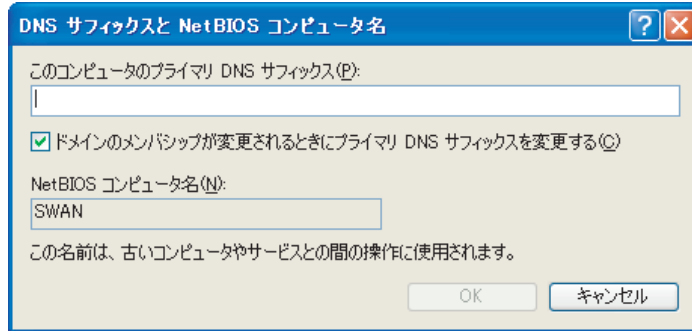
❑ ［マイコンピュータ］アイコンを右クリックして、［管理］を選択します。

［コンピュータの管理］ウィンドウが表示されます。

❑ ［コンピュータの管理（ローカル)］を右クリックして、［プロパティ］を選択します。

［コンピュータの管理（ローカル）のプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

❑ ［ネットワーク ID］タブをクリックして、［ネットワーク ID］ページを表示します。［コンピュータ名］を確認します。

Windows XPの画面例

❑ ［キャンセル］をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。続いて［コンピュータの管理］ウィンドウを閉じます。

## ● Windows XP/Server 2003 の場合

❑ ［スタート］メニューの［マイコンピュータ］を右クリックして、［プロパティ］を選択します。

❑ ［コンピュータ名］タブをクリックして、［コンピュータ名］ページを表示します。

❑ ［変更］をクリックして、［コンピュータ名の変更］ダイアログボックスで［詳細］をクリックします。

❑ ［DNS サフィックスと NetBIOS コンピュータ名］ダイアログボックスで、［NetBIOS コンピュータ名］を確認します。

❑ ［キャンセル］を繰り返しクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

## ● Windows Vista の場合

❑ ［スタート］メニュー－［マイコンピュータ］アイコンを右クリックして、［システムの詳細設定］を選択します。

❑ ［コンピュータ名］タブをクリックして、［コンピュータ名］ページを表示します。

❑ ［変更］をクリックして、［コンピュータ名／ドメイン名の変更］ダイアログボックスで［詳細］をクリックします。

❑ ［DNS サフィックスと NetBIOS コンピュータ名］ダイアログボックスで、［NetBIOS コンピュータ名］を確認します。

❑ ［キャンセル］を繰り返しクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

## 4 共有フォルダにアクセスするユーザーとパスワードを設定します。Windows XP Home Edition をお使いの場合は、手順 5 に進みます。

● Windows 2000 の場合

❑ 画面上の［マイコンピュータ］を右クリックして、［管理］を選択します。

● Windows XP/Server 2003 の場合

❑ ［スタート］メニューの［マイコンピュータ］を右クリックして、［管理］を選択します。

● Windows Vista の場合

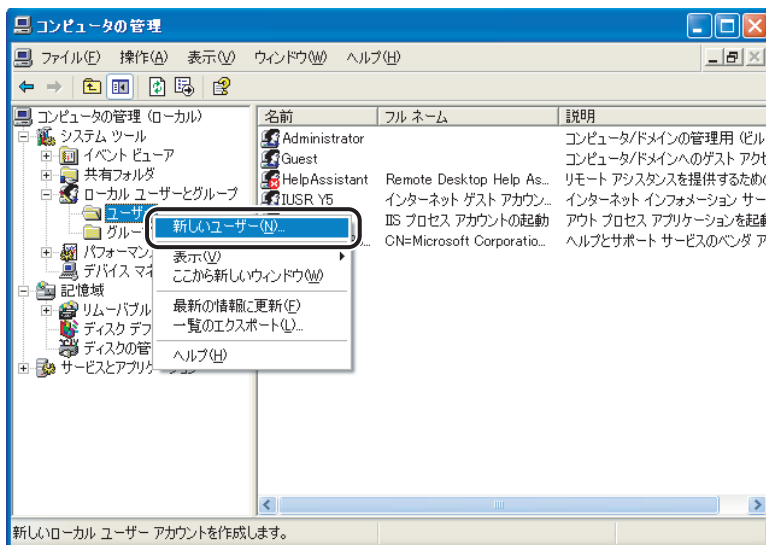
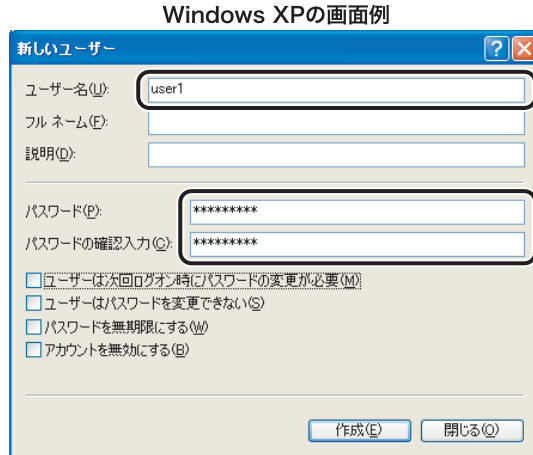
❑ ［スタート］メニューの［コンピュータ］を右クリックして、［管理］を選択します。

［コンピュータの管理］ウィンドウが表示されます。

❑ ［システムツール］の中の［ローカルユーザーとグループ］をダブルクリックして、その中の［ユーザー］フォルダを右クリックします。ポップアップメニューから、［新しいユーザー］を選択します。

Windows XPの画面例

❑ ［新しいユーザー］ダイアログボックスで、［ユーザー名］、［パスワード］、［パスワードの確認入力］を入力します。

Windows XPの画面例

ユーザー名は半角 24 文字（全角 12 文字）以内、パスワードは半角 14 文字以内で設定します。

［ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要］にチェックマークを付けて新規ユーザを追加した場合は、新規ユーザはいったんパスワードを変更してからでないと、本製品からファイルを送信することはできません。（本製品でパスワードを変更することはできません。）

❑ 内容を確認したあと、［作成］をクリックします。

❑ ［コンピュータの管理］ウィンドウを閉じます。

メモ　Windows Vista で［ユーザーアカウント制御］ダイアログボックスが表示された場合は、［続行］をクリックしてください。

## 5 共有フォルダを設定します。

### ● Windows 2000/XP/Server 2003 の場合

❑ エクスプローラなどで、共有するフォルダを選択したあと、右クリックして［プロパティ］を選択します。

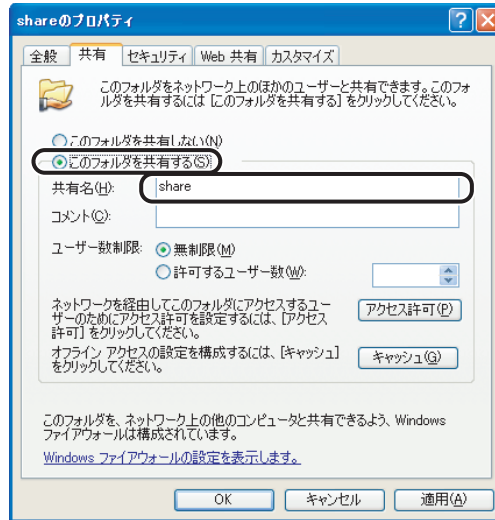
❑ ［共有］ページで［このフォルダを共有する］を選択して、［共有名］を入力します。

● **Windows Vista の場合**

❑ エクスプローラなどで、共有するフォルダを選択したあと、右クリックして［プロパティ］を選択します。

❑ ［共有］ページで［詳細な共有］をクリックします。

❑ ［詳細な共有］ダイアログボックスで［このフォルダを共有する］を選択して、［共有名］を入力します。

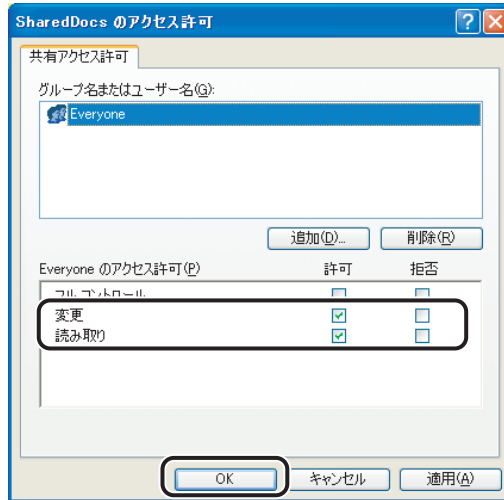
Windows XPの画面例

メモ　Windows Vista で［ユーザーアカウント制御］ダイアログボックスが表示された場合は、［続行］をクリックしてください。

## 6 アクセス権を設定します。

● **共有フォルダを作成したドライブが FAT または FAT32 フォーマットの場合（［セキュリティ］タブがない場合）**

❑ ［アクセス許可］をクリックします。共有するフォルダへのアクセスを許可するユーザまたはグループを選択して、［アクセス許可］で、［変更］と［読み取り］の両方にチェックマークを付けたあと、［OK］をクリックします。

メモ　Windows Vista で［ユーザーアカウント制御］ダイアログボックスが表示された場合は、［続行］をクリックしてください。

Windows XPの画面例

● 共有フォルダを作成したドライブが NTFS フォーマットの場合([セキュリティ]タブがある場合)

❑ ［アクセス許可］をクリックします。共有するフォルダへのアクセスを許可するユーザまたはグループを選択して、［アクセス許可］で、［変更］と［読み取り］の両方にチェックマークを付けたあと、［OK］をクリックします。

❑ 共有するフォルダのプロパティダイアログボックスの［セキュリティ］タブをクリックします。共有するフォルダへのアクセスを許可するユーザまたはグループを選択あるいは追加して、［アクセス許可］で、［書き込み］と［読み取りと実行］以上のアクセス権を設定します。フォルダ内のファイルには、［書き込み］と［読み取り］以上のアクセス権を設定します。

❑ ［OK］をクリックして、共有するフォルダのプロパティダイアログボックスを閉じます。

メモ　Windows XP の場合［セキュリティ］タブは以下の手順で表示することができます。詳しい手順は、Windows XP の説明書を参照してください。

- Windows XP Professional：フォルダオプションで［簡易ファイルの共有を使用する］のチェックマークを外します。［簡易ファイルの共有を使用する］にチェックマークを付けると、ファイルを共有することもできます。お使いの環境に合わせて設定してください。
- Windows XP Home Edition：Windows をセーフモードで起動し、Windows 拡張オプションメニューで［セーフモードとネットワーク］を選択します。ログイン後、共有するフォルダのプロパティダイアログボックスを開くと［セキュリティ］タブが表示されます。

## 7 本製品の操作パネルで宛先を設定します。

宛先の設定は、［参照］を押してリストから選択する方法と、各項目のキーを押して文字入力する方法があります。

宛先の設定例：

- サーバ側の設定（上記手順で設定、確認した内容）

［コンピュータ名］：　swan
［共有名］：　share
share の中に Images というフォルダを作り、Images をデータの送信先にする。

- 本製品の宛先の設定

［プロトコル］：　Windows（SMB）
［ホスト名］：　¥¥swan¥share（共通フォルダのパスで ¥¥ は省略可能）
［フォルダへのパス］：¥Images
［ユーザ名］：　（手順 4 で設定したユーザ名）
［パスワード］：　（上記ユーザのパスワード）

重要

- 各項目の値を参照画面でリストから選択する場合は、「起動時間の設定」（→ P.3-45）で設定した時間が経過してから［参照］を押してください。（工場出荷時の起動時間の設定値は「60」秒です。）
- 操作パネルの［ホスト名］に入力できるのは、半角 120 文字（全角 60 文字）以内です。また、［フォルダへのパス］は半角 120 文字（全角 60 文字）以内です。それぞれ制限文字数以内になるように、サーバ側を設定してください。
- タッチパネルの表示言語を切り替えると、［ホスト名］や［フォルダへのパス］が正しく表示されなかったり、参照できないことがあります。
- マスタブラウザとなっているコンピュータと本製品の操作パネルの表示言語が異なる場合、［ホスト名］や［フォルダへのパス］が正しく表示されなかったり、参照できないことがあります。
- Windows XP Home Edition をお使いの場合は、[ ユーザ名 ] と [ パスワード ] の入力は不要です。

メモ

- 宛先の［ホスト名］は、次の形式で指定することもできます。後者の場合は DNS サーバが必要です。
  ¥¥192.168.2.100¥share
  ¥¥host_name.organization.company.co.jp¥share
- 宛先の設定方法は、送信／ファクスガイド「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

これで共有フォルダへ送信するための設定が完了しました。

## UNIX/Linux で Samba をお使いの場合

重要
- Samba は、2.2.8a 以降に対応しています。
- お使いの環境によっては、Samba を使用するための詳細な設定が必要な場合があります。詳しくは、お使いの環境のネットワーク管理者にご相談ください。

**1** **ワークステーションにスーパーユーザとしてログインします。**

**2** **Samba の共有フォルダにアクセスするユーザとパスワードを設定します。**

ユーザ名は半角２４文字以内、パスワードは半角 14 文字以内で設定します。

**3** **本製品の操作パネルで宛先を設定します。**

宛先の設定は、［参照］を押してリストから選択する方法と、各項目のキーを押して文字入力する方法があります。

宛先の設定例：

- サーバ側の設定

［コンピュータ名］：　swan
［共有名］：　share
share の中に Images というフォルダを作り、Images をデータの送信先にする。

- 本製品の宛先の設定

［プロトコル］：　Windows（SMB）
［ホスト名］：　¥¥swan¥share（共通フォルダのパス）
［フォルダへのパス］：¥Images
［ユーザ名］：　（上記手順で設定したユーザ名）
［パスワード］：　（上記ユーザのパスワード）

重要
- 各項目の値を参照画面でリストから選択する場合は、「起動時間の設定」(➞P.3-45)で設定した時間が経過してから［参照］を押してください。（工場出荷時の起動時間の設定値は「60」秒です。）
- 操作パネルの［ホスト名］に入力できるのは、半角120文字（全角60文字）以内です。また、［フォルダへのパス］は半角120文字（全角60文字）以内です。それぞれ制限文字数以内になるように、サーバ側を設定してください。
- タッチパネルの表示言語を切り替えると、［ホスト名］や［フォルダへのパス］が正しく表示されなかったり、参照できないことがあります。
- マスタブラウザとなっているコンピュータと本製品の操作パネルの表示言語が異なる場合、［ホスト名］や［フォルダへのパス］が正しく表示されなかったり、参照できないことがあります。

メモ
- 宛先の［ホスト名］は、次の形式で指定することもできます。後者の場合はDNSサーバが必要です。
  ¥¥192.168.2.100¥share
  ¥¥host_name.organization.company.co.jp¥share
- 宛先の設定方法は、送信／ファクスガイド「第2章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

これで共有フォルダへ送信するための設定が完了しました。

5
CHAPTER

# 困ったときには

**操作中に起きたトラブルの解決法について説明しています。**

# ネットワーク接続に関するトラブルと対処方法

ネットワーク接続に関するトラブルの原因とその対処方法について説明しています。

## 操作パネルに「ネットワークの接続を確認してください。」と表示される

**原　因**　本製品とケーブルが正しく接続されていない。

**処　置**　いったん電源を切り、次のことを確認したあと、本製品の電源を入れなおしてください。

- 本製品がネットワークに正しいケーブルを使って接続されていることを確認します。（➞ ケーブルの接続：P.2-3）



## 意図しない接続先に自動的にダイヤルアップする（ネットワークにダイヤルアップルータが接続されている場合）

**原　因**　本製品は、定期的、または一時的にネットワーク上の機器と通信を行います。
本製品が接続されているネットワーク上に、ダイヤルアップルータが接続されている場合、本製品やダイヤルアップルータの設定によっては、意図しない接続先に接続された状態になり、電話回線の利用料や通信料が発生することがあります。
例：

- 本製品で設定したファイルサーバやメールサーバなどのホスト名や IP アドレスが、本製品が接続されているネットワーク上に存在しない場合。
- DNS サーバが、外部のネットワークにある場合。
- 本製品の接続されているネットワーク上に、外部のネットワークに接続されている機器の情報が登録されている DNS サーバがある場合に、その機器に接続するとき。

**処　置**　次のことを確認してください。

- ダイヤルアップルータでブロードキャストを通す必要がない場合は、ダイヤルアップルータの設定をブロードキャストを通さない設定にしてください。ダイヤルアップルータでブロードキャストを通す必要がある場合は、設定が正しいかどうかを確認してください。
- 本製品で設定したファイルサーバやメールサーバなどのホスト名や IP アドレスが正しいかどうかを確認してください。
- DNS サーバが外部のネットワークにある場合は、本製品が接続されているネットワーク上の機器に接続する場合でも、接続先はホスト名ではなく、IP アドレスを使用して設定してください。

- DNS サーバが本製品が接続されているネットワーク上にあり、DNS サーバに外部のネットワークに接続されている機器の情報が登録されている場合は、その設定が正しいかどうかを確認してください。

## リモート UI やユーティリティソフトウェアで本製品を認識できない

**原因 1** リモート UI やユーティリティソフトウェアを実行するコンピュータの IP アドレスが、本製品の［IP アドレス範囲設定］で許可されていない。

**処　置** リモート UI やユーティリティソフトウェアを実行するコンピュータの IP アドレスが、本製品の［IP アドレス範囲設定］で許可されていないと、本製品の情報を表示したり、各項目を設定したりすることができません。
本製品の［IP アドレス範囲設定］で、リモート UI やユーティリティソフトウェアを実行するコンピュータの IP アドレスが許可 IP アドレスに含まれるようにしてください。（➞ TCP/IP の設定（IPv4）：P. 3-4 の手順 9、TCP/IP の設定（IPv6）：P. 3-24 の手順 7）

**原因 2** ［SNMP を使用］や［専用ポート設定］が［OFF］になっている。

**処　置** ［SNMP を使用］と［専用ポート設定］を［ON］にします。
（➞ 通信環境の設定 : P. 2-10）

**原因 3** SNMP のコミュニティ名が異なっている。

**処　置** 本製品に設定されている SNMP のコミュニティ名と異なるコミュニティ名でユーティリティソフトウェアから本製品にアクセスすると、本製品を認識できません。SNMP のコミュニティ名を確認してください。（➞ 通信環境の設定 : P. 2-10）

# 印刷に関するトラブルと対処方法

印刷に関するトラブルの原因とその対処方法について説明しています。

## ドライバをインストールできない（TCP/IP ネットワーク）

**原　因**　ドライバをインストールするコンピュータの IP アドレスが、本製品の［IP アドレス範囲設定］で許可されていない。

**処　置**　TCP/IP を使用して印刷する場合、ドライバを正常にインストールするには、ドライバをインストールするコンピュータの IP アドレスが、本製品の［IP アドレス範囲設定］で許可されている必要があります。
本製品の［IP アドレス範囲設定］の設定内容を確認してください。（➞ TCP/IP の設定（IPv4）：P.3-4 の手順 9、TCP/IP の設定（IPv6）：P.3-24 の手順 7）



## TCP/IP ネットワークから印刷できない

**原因 1**　本製品とケーブルが正しく接続されていない。

**処　置**　次のことを確認したあと、本製品の電源を入れなおしてください。

- 本製品がネットワークに正しいケーブルを使って接続されていることを確認します。（➞ケーブルの接続：P.2-3）

**原因 2**　TCP/IP ネットワークが正しく設定されていない。

**処　置**　次のことを確認してください。

- IPv4 アドレスが正しく設定されていることを確認します。DHCP、BOOTP、RARP のいずれかを使用して IPv4 アドレスを設定する場合は、DHCP、BOOTP、RARP が動作していることを確認してください。
- IPv6 アドレスが正しく設定されていることを確認します。ルータの設定を確認後、<ステートレスアドレスを使用>を「ON」にして、アドレスを取得できるか確認してください。DHCPv6 を使用して IPv6 アドレスを設定する場合は、DHCPv6 が動作していることを確認してください。

**メモ**　上記の設定が正しくても本製品を認識できない場合は、ネットワーク部の起動時間を遅らせると問題が解決することがあります。（➞起動時間の設定：P.3-45）

**原因 3**　印刷を行うコンピュータが正しく設定されていない。（Windows）

**処　置**　次のことを確認してください。

- 正しいプリンタドライバがインストールされていることを確認します。Windows から印刷を行うには、各コンピュータにプリンタドライバがインストールされている必要があります。（➞ CARPS2 ソフトウェアガイド）
- 印刷を行うコンピュータの出力先が正しいプリンタに設定されているか確認します。出力先は、［コントロールパネル］の［プリンタ］で確認できます。
- Windows 98/MeでLPDをお使いの場合は、以下の手順でスプールの設定を確認します。：［スタート］メニューから［設定］－［プリンタ］を選択します ➞ 使用するプリンタのアイコンを右クリックして、［プロパティ］を選択します ➞［詳細］タブをクリックして、［詳細］ページを表示します ➞［スプールの設定］をクリックして、［プリンタスプールの設定］ダイアログボックスを表示します ➞［印刷ジョブをスプールしてプログラムの印刷処理を高速に行う］が選択されていることを確認します。（これが選択されていなかった場合は、選択したあと［OK］をクリックします。）

**原因 4**　印刷するファイル名が長すぎる。

**処　置**　通常 LPR（Windows 2000/XP/Server 2003 の場合は「Microsoft TCP/IP 印刷」）は、印刷に使用するアプリケーションソフトウェア名やファイル名を元にしたジョブ名を送信します。しかし、ジョブ名が 255 バイト以上になると、正常に送信できなくなります。このときは、印刷するファイル名を短くしてください。

**原因 5**　印刷データを送信するコンピュータの IP アドレスが、本製品の［IP アドレス範囲設定］で許可されていない。

**処　置**　本製品の［IP アドレス範囲設定］の設定内容を確認してください。（➞ TCP/IP の設定（IPv4）：P.3-4 の手順 9、TCP/IP の設定（IPv6）：P.3-24 の手順 7）

**原因 6**　本製品のタッチパネルディスプレイに、エラーメッセージが表示されている。

**処　置**　エラーメッセージを確認したあと、ユーザーズガイド「第 8 章　困ったときには」を参照して表示されているエラーメッセージに適した処置を行ってください。

# ファイルサーバへの送信に関するトラブルと対処方法

ファイルサーバへの送信に関するトラブルの原因とその対処法について説明しています。

## データを送信できない／ファイルを共有できない（FTP）

**原因 1** FTP サーバが正しく設定されていない。

**処　置** 以下を実行して、サーバの状態を確認してください。（Windows をお使いの場合は、MS-DOS プロンプト、またはコマンドプロンプトで実行してください。）

- FTP サーバの IP アドレスが、192.168.1.195 の場合の UNIX での実行例

```
U:>ftp192.168.1.195　←サーバへの接続
Connected to192.168.37.195.
220 canmfs FTP server (UNIX(r) System V Release4.0) ready.
User (192.168.37.195:(none)):user_name　←ユーザログイン
331 Password required for user_name.
Password:　←パスワード入力
230 User user_name logged in.
ftp>cd /export/share　←データの送信先のディレクトリに移動
250 CWD command successful.
ftp>bin　←データ転送タイプ指定（バイナリ指定）
200 Type set to I.
ftp>put sample.tif　←確認用の転送ファイル名指定
ftp>bye　←サーバとの接続を切断
221 Goodbye
```

**メモ** 以上のことを実行しても正常に動作しない場合は、お使いの環境のネットワーク管理者にご相談ください。

**原因 2** 本製品の宛先の［ユーザ名］の設定で、ユーザ名の末尾に空白（スペース）が入力されている。

**処　置** 本製品の宛先の［ユーザ名］の設定で、末尾に空白（スペース）が含まれていないかどうかを確認してください。

**原因 3** 本製品のサーバから　FTP　サーバへのデータの送信中に本製品の電源が切れたので、再起動後にこのデータを再送信した。（Windows 2000/XP/Server 2003/Vista を FTP サーバに設定している場合）

**処　置** FTP サーバへのファイルの送信中に本製品の電源が切れた場合、FTP サーバは転送が完了しなかったデータを書き込み中の状態で保持しています。したがって、FTP サーバに新たに接続して再送信しても、このデータに上書きすることはできません。いったん FTP サーバを停止して、転送が完了しなかったデータを削除すると、再びデータを送信できるようになります。

**原因 4** 本製品のタッチパネルディスプレイに、エラーメッセージが表示されている。

**処　置** エラーメッセージを確認したあと、ユーザーズガイド「第８章　困ったときには」を参照して表示されているエラーメッセージに適した処置を行ってください。

## データを送信できない／ファイルを共有できない（Windows、Samba のファイル共有）

**原因 1** 共有フォルダのファイル共有の設定が正しく設定されていない。

**処　置** 次のことを確認してください。

- お使いのコンピュータのエクスプローラで、［ネットワークコンピュータ］をダブルクリックして、共有したいコンピュータがあるかどうか確認します。
（［スタート］メニューから［検索］―［ほかのコンピュータ］を選択して、共有したいコンピュータ名を入力しても、共有したいコンピュータがネットワーク上にあるかどうかを確認できます。）
- 共有したいコンピュータがあった場合には、そのコンピュータのアイコンをダブルクリックして、共有したいフォルダの共有名があるかどうかを確認します。
- 共有名が見つからない場合は、「ファイルサーバの設定」（➞ P.3-53）を参照して、共有フォルダの設定を確認してください。

**原因 2** 本製品のタッチパネルディスプレイに、エラーメッセージが表示されている。

**処　置** エラーメッセージを確認したあと、ユーザーズガイド「第８章　困ったときには」を参照して表示されているエラーメッセージに適した処置を行ってください。

6
CHAPTER

# 付録

**ネットワーク設定項目、仕様、および索引について説明しています。**

# ネットワーク設定項目一覧

本製品の操作パネル、Web ブラウザ（リモート UI）、NetSpot Device Installer を使用すると、本製品の設定を変更することができます。変更できる設定項目は以下のとおりです。

メモ
- NetSpot Device Installer で設定できない項目については、本製品の操作パネルまたは、Web ブラウザ（リモート UI）で設定してください。
- 文字数は 1byte 文字の場合の文字数です。

■ TCP/IP 設定

| 項目名 | 内容 | 工場出荷時の設定 | NetSpot Device Installer による設定 | Web ブラウザ（リモート UI）による設定 |
|---|---|---|---|---|
| **IPv4 設定：IP アドレス設定** | | | | |
| IP アドレス | IP アドレス | 0.0.0.0 | ○ | ○ |
| サブネットマスク | IP アドレス | 0.0.0.0 | ○ | ○ |
| ゲートウェイアドレス | IP アドレス | 0.0.0.0 | ○ | ○ |
| DHCP | ON/OFF | OFF | ○ | ○ |
| RARP | ON/OFF | OFF | ○ | ○ |
| BOOTP | ON/OFF | OFF | ○ | ○ |
| **IPv4 設定：PING コマンド** | | | | |
| PING コマンド | IP アドレス | 0.0.0.0 | × | ○ |
| **IPv4 設定：IP アドレス範囲設定** | | | | |
| IP アドレス範囲設定 | ON/OFF<br>IPv4 アドレス<br>（10 個まで登録可能） | OFF | × | ○ |
| **IPv4 設定：DNS 設定** | | | | |
| **IPv4 設定：DNS 設定：DNS サーバアドレス設定** | | | | |
| プライマリ DNS サーバ | IPv4 アドレス | 0.0.0.0 | × | ○ |
| セカンダリ DNS サーバ | IPv4 アドレス | 0.0.0.0 | × | ○ |

| 項目名 | 内容 | 工場出荷時の設定 | NetSpot Device Installer による設定 | Web ブラウザ (リモート UI) による設定 |
|---|---|---|---|---|
| **IPv4 設定：DNS 設定：DNS ホスト名／ドメイン名設定** | | | | |
| ホスト名 | 最大 47 文字 | CANON ＊＊＊＊＊＊（"＊＊＊＊＊＊"は MAC アドレスの下 6 桁） | × | ○ |
| ドメイン名 | 最大 47 文字 | | × | ○ |
| **IPv4 設定：DNS 設定：DNS の動的更新設定** | | | | |
| DNS の動的更新 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| **IPv6 設定：IPv6 を使用** | | | | |
| IPv6 を使用 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| **IPv6 設定：ステートレスアドレス設定** | | | | |
| ステートレスアドレスを使用 | ON/OFF | ON | × | ○ |
| **IPv6 設定：手動アドレス設定** | | | | |
| 手動アドレスを使用 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| 手動アドレス | IPv6 アドレス（最大 39 文字） | — | × | ○ |
| プレフィックス長 | 0 ～ 128 | 0 | × | ○ |
| デフォルトルータアドレス | 最大 39 文字 | — | × | ○ |
| **IPv6 設定：DHCPv6 を使用** | | | | |
| DHCPv6 を使用 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| **IPv6 設定：PING コマンド** | | | | |
| IPv6 アドレス | 最大 39 文字 | — | × | ○ |
| ホスト名 | 最大 48 文字 | — | × | ○ |
| **IPv6 設定：IP アドレス範囲設定** | | | | |
| IP アドレス範囲設定 | ON/OFF<br>IPv6 アドレス（10 個まで登録可能） | OFF | × | ○ |

| 項目名 | 内容 | 工場出荷時の設定 | NetSpot Device Installer による設定 | Web ブラウザ（リモート UI）による設定 |
|---|---|---|---|---|
| **IPv6 設定：DNS 設定** | | | | |
| **IPv6 設定：DNS 設定：DNS サーバアドレス設定** | | | | |
| プライマリ DNS サーバ | IPv6 アドレス | — | × | ○ |
| セカンダリ DNS サーバ | IPv6 アドレス | — | × | ○ |
| **IPv6 設定：DNS 設定：DNS のホスト名 / ドメイン名設定** | | | | |
| IPv4 と同じホスト名 / ドメイン名を使用 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| ホスト名 | 最大 47 文字 | CANON ＊＊＊＊＊＊（" ＊＊＊＊＊＊ " は MAC アドレスの下 6 桁） | × | ○ |
| ドメイン名 | 最大 47 文字 | — | × | ○ |
| **IPv6 設定：DNS 設定：DNS の動的更新設定** | | | | |
| DNS の動的更新 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| 手動アドレスの登録 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| ステートフルアドレスの登録 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| **WINS 設定** | | | | |
| WINS による名前解決 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| WINS サーバ | IP アドレス | 0.0.0.0 | × | ○ |
| **LPD 印刷の設定** | | | | |
| LPD 印刷の設定 | ON/OFF | ON | × | ○ |
| **RAW 印刷の設定** | | | | |
| RAW 印刷を使用 | ON/OFF | ON | × | ○ |
| 双方向を使用 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| **FTP の PASV モードを使用** | | | | |
| FTP の PASV モードを使用 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| **拡張 FTP の ON/OFF** | | | | |
| 拡張 FTP の ON/OFF | ON/OFF | OFF | × | ○ |

| 項目名 | 内容 | 工場出荷時の設定 | NetSpot Device Installerによる設定 | Webブラウザ(リモートUI)による設定 |
|---|---|---|---|---|
| **HTTPを使用** | | | | |
| HTTPを使用 | ON/OFF | ON | × | ○ |
| **ポート番号設定** | | | | |
| LPD | 0～65535 | 515 | × | ○ |
| RAW | 0～65535 | 9100 | × | ○ |
| HTTP | 0～65535 | 80 | × | ○ |
| SMTP受信 | 0～65535 | 25 | × | ○ |
| POP 3受信 | 0～65535 | 110 | × | ○ |
| FTP送信 | 0～65535 | 21 | × | ○ |
| SMTP送信 | 0～65535 | 25 | × | ○ |
| SNMP | 0～65535 | 161 | × | ○ |
| **受信許可MACアドレス設定** | | | | |
| 設定を有効にする | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| MACアドレス | MACアドレス(5個まで登録可能) | | × | ○ |
| **プロキシ設定** | | | | |
| プロキシを使用 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| サーバアドレス | プロキシサーバのIPアドレスまたは名称(最大128文字) | — | × | ○ |
| ポート番号 | 1～65535 | 80 | × | ○ |
| 同一ドメインにもプロキシを使用 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| **認証設定** | | | | |
| プロキシ認証を使用 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| ユーザ名 | 最大24文字 | — | × | ○ |
| パスワード | 最大24文字 | — | × | ○ |

■ SMB 設定

| 項目名 | 内容 | 工場出荷時の設定 | NetSpot Device Installer による設定 | Web ブラウザ (リモート UI) による設定 |
|---|---|---|---|---|
| SMB クライアントを使用 | ON/OFF | ON | × | ○ |
| サーバ名 | 最大 15 文字 | — | × | ○ |
| ワークグループ名 | 最大 15 文字 | — | × | ○ |
| コメント | 最大 48 文字 | — | × | ○ |
| LM アナウンスを使用 | ON/OFF | OFF | × | ○ |

■ SNMP 設定

| 項目名 | 内容 | 工場出荷時の設定 | NetSpot Device Installer による設定 | Web ブラウザ (リモート UI) による設定 |
|---|---|---|---|---|
| SNMP を使用 | ON/OFF | ON | × | ○ |
| コミュニティ名 | コミュニティ名 | public | × | ○ |
| SNMP 書き込み可能 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| ホストからプリンタ管理情報を取得 | ON/OFF | OFF | × | ○ |

■ 専用ポート設定

| 項目名 | 内容 | 工場出荷時の設定 | NetSpot Device Installer による設定 | Web ブラウザ (リモート UI) による設定 |
|---|---|---|---|---|
| 専用ポート設定 | ON/OFF | ON | × | ○ |

## ■ Ethernet ドライバ設定

| 項目名 | 内容 | 工場出荷時の設定 | NetSpot Device Installer による設定 | Web ブラウザ（リモート UI）による設定 |
|---|---|---|---|---|
| 自動検出 | ON/OFF | ON | × | ○ |
| 通信方式 | 半二重／全二重 | 半二重 | × | ○ |
| Ethernet の種類 | 10 Base-T/ 100 Base-TX | 10 Base-T | × | ○ |
| MAC アドレス | 表示のみ | – | – | – |

## ■ 電子メール／I ファクス*1

| 項目名 | 内容 | 工場出荷時の設定 | NetSpot Device Installer による設定 | Web ブラウザ（リモート UI）による設定 |
|---|---|---|---|---|
| SMTP 受信 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| POP | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| SMTP サーバ | 名称または IP アドレス（最大 48 文字） | — | × | ○ |
| 電子メールアドレス | 最大 64 文字 | — | × | ○ |
| POP サーバ | 名称または IP アドレス（最大 48 文字） | — | × | ○ |
| POP アドレス | 最大 32 文字 | — | × | ○ |
| POP パスワード | 最大 32 文字 | — | × | ○ |
| POP 発行間隔 | 0 ～ 99 分（0 のときは発行しない） | 0 | × | ○ |
| **認証 / 暗号化設定** | | | | |
| 送信前の POP 認証 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| SMTP 認証 | ON/OFF | OFF | × | ○ |
| ユーザ名 | SMTP 認証用のユーザ名（最大 64 文字） | — | × | ○ |
| パスワード | SMTP 認証用のパスワード（最大 32 文字） | — | × | ○ |

*1 これらの項目は、オプションのシンプル SEND 拡張キットを装着している場合に有効になります。

■ 起動時間の設定

| 項目名 | 内容 | 工場出荷時の設定 | NetSpot Device Installerによる設定 | Web ブラウザ(リモート UI)による設定 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 起動時間の設定 | 0 ～ 300 秒 | 60 | × | ○ |

# ユーティリティソフトウェアを使用するには

以下のユーティリティソフトウェアを使用すると、ネットワークに接続されているキヤノンデバイスの各種設定をコンピュータ上で行うことができます。

■ **NetSpot Device Installer**

ネットワークに接続されたキヤノン製デバイスの初期設定を行うユーティリティソフトウェアです。NetSpot Device Installer は、コンピュータへのインストールが不要なソフトウェアで、簡単にデバイスの初期設定を行うことができます。

メモ

- NetSpot Device Installer の動作環境と使用方法については、「CARPS2 ソフトウェアガイド」を参照してください。ソフトウェアをダウンロードした場合は、ダウンロードしたファイルに含まれている Readme ファイルまたはユーザーズガイド（PDF 取扱説明書）を参照してください。
- 「CARPS2 ソフトウェアガイド」は、オプションの CARPS2 プリンタキットに同梱されています。

# 設定内容を確認するには

ユーザデータリストを印刷することによって、本製品のネットワークの設定内容を確認することができます。
ユーザデータリストは、次の手順で印刷することができます。

**1** **(初期設定 / 登録)を押します。**

**2** **[レポート出力]→[リストプリント]→[ユーザデータリスト]を順に押します。**

**3** **確認のメッセージが表示されたら、[はい]を押します。**

ユーザデータリストが印刷されます。

# 主な仕様

仕様は、予告なく変更されることがあります。

## ハードウェアの仕様

| ネットワーク<br>インタフェース | 10 BASE-T/100 BASE-TX 共用（RJ45） |
|---|---|

## ソフトウェアの仕様

| 対応プロトコル | | |
|---|---|---|
| **TCP/IP** | フレームタイプ： | Ethernet II |
| | プリントアプリケーション： | LPD/Raw |

# 索引

## 英数字

## あ



## か

## た



## な



## は

## 消耗品のご注文先

販 売 先

電話番号

担当部門

担 当 者

## サービス担当者 連絡先

販 売 店

電話番号

担当部門

担 当 者

Canon キヤノン株式会社・キヤノンマーケティングジャパン株式会社

お客様相談センター
（全国共通番号）

**050-555-90024**

［受付時間］ 〈平日〉9:00〜20:00
〈土日祝祭日〉10:00〜17:00
（1/1〜3は休ませていただきます）

※上記番号をご利用いただけない方は 043-211-9627 をご利用ください。
※IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

USRM1-2222-00